

「朝日賞」候補者推薦のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日ごろから朝日新聞社および朝日新聞文化財団の諸事業に格別のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたびは2019年度「朝日賞」の候補者をご推薦いただきたく、推薦票を添えてお願い申し上げます。毎年多くの方々に推薦のお願いをしており、今回初めてお送りする方もいらっしゃると思いますが、どうかご協力いただければ幸いです。

朝日賞は、1929（昭和4）年に朝日新聞社が創刊50周年を記念して創設しました。人文や自然科学など、わが国のさまざまな分野において傑出した業績をあげ、文化や社会の発展、向上に多大な貢献をされた個人または団体にお贈りしています。各界の皆様から候補者をご推薦いただき、朝日賞選考委員会で慎重に審議したうえで受賞者を決定いたします。

つきましては、今年度の朝日賞にふさわしい候補者のご推薦をお願いしたいと存じます。人数は原則1名、最大2名までとさせていただきます。

年齢、国籍に制限はありません。特に人文の領域では、この1年あるいは近年の顕著な業績を重視して選考いたします。若々しく、文化・芸術をまさに今、生み出しつつある方々、近年受賞者の少ない社会科学分野の方の推薦もお待ちしております。参考までに、これまでの受賞者一覧を同封いたします。

ご推薦のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。受賞者は2020年元日の朝日新聞紙上で発表し、1月下旬に贈呈式を行います。

ご多忙のところ恐縮ですが、同封の推薦票にご記入のうえ、8月26日（月）必着で返信用封筒にてご返送下さい。

電子版推薦票（※）で専用アドレス(asahiprize@asahi.com)にお送りいただくこともできます。

敬 具

2019年7月

朝 日 新 聞 社
朝日新聞文化財団

※お送りしました推薦票とは別に、朝日新聞社のホームページからダウンロードしてご使用になれる電子版推薦票(Microsoft Word形式)も用意しました。一般には非公開となっていますので、お手数ですが、次のURLからファイルを開いてください。開く際にはパスワードをご入力ください。

U R L <http://t.asahi.com/asap2>

パスワード SUISEN（半角大文字）

※お問い合わせなどは、以下で承ります（平日：午前10時～午後6時）

朝日新聞社 CSR推進部「朝日賞」事務局

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

電話 03-5540-7453（直通）、ファクス 03-3541-8999

朝日賞 The Asahi Prize

[「朝日賞」TOPページへ](#)

[English](#)

▼ 新着情報

2019.06.25	上野千鶴子さんが選考委員に <small>new</small>
2019.02.04	2018年度受賞者のスピーチを紹介
2019.01.01	2018年度受賞者と業績

朝日賞とは

沿革

1929年(昭和4年)に朝日新聞創刊50周年記念事業として創設しました。一時、文化、福祉、体育の3部門に分かれていましたが1975年度に「朝日賞」を総合賞とし、「朝日社会福祉賞」、「朝日体育賞」(現在のスポーツ賞)を独立させました。1992年(平成4年)に朝日新聞文化財団が授賞事業を引き継ぎました。受賞者のなかから後年、ノーベル賞や文化勲章を受けられた方も多く出ています。第1回以来の受賞者は合わせて470人と28団体になります。(2018年度現在)

対象

学術、芸術などの分野で傑出した業績をあげ、わが国の文化、社会の発展、向上に多大の貢献をされた個人または団体に贈ります。原則として年度賞とし、毎年1月から12月までの業績を対象とします。長年にわたる業績に対してお贈りすることもあります。

選考方法

全国の大学、研究機関、有識者らに候補推薦を依頼し、朝日新聞文化財団朝日賞選考委員会で受賞者を選考します。

▼選考委員(敬称略)

- 青柳 正規 (前文化庁長官)
- 伊東 豊雄 (建築家)
- 上野千鶴子 (社会学者)
- 梶田 隆章 (東京大学宇宙線研究所長)
- 榊 裕之 (豊田工業大学学長)
- 田中 啓二 (東京都医学総合研究所理事長)
- 野田 秀樹 (劇作家)
- 西村 陽一 (朝日新聞社常務取締役コンテンツ統括)
- 渡辺 雅隆 (委員長、朝日新聞文化財団理事長・朝日新聞社社長)

発表・贈呈式

毎年、1月1日の朝日新聞朝刊で発表します。1月下旬に贈呈式を行い、正賞のブロンズ像と副賞1件500万円を贈ります。

★ お問い合わせ ★

朝日新聞社CSR推進部「朝日賞」事務局
 〒104-8011
 東京都中央区築地5-3-2
 [TEL] 03-5540-7453
 [FAX] 03-3541-8999
 公益財団法人 朝日新聞文化財団
 〒100-0005
 東京都千代田区丸の内2-1-1
 明治生命館6階
 [TEL] 03-6269-9441
 [FAX] 03-6269-9442



朝日賞 過去の受賞者リスト

▼テキストをクリックすると詳細ページへ飛びます。

- 2018年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2017年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2016年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2015年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2014年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2013年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2012年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2011年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2010年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2009年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2008年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2007年度 ★受賞者 ★贈呈式
- 2006年度 ★受賞者
- 2005年度 ★受賞者
- 2004年度 ★受賞者
- 2003年度 ★受賞者
- 2002年度 ★受賞者
- 2001年度 ★受賞者
- 2000年度 ★受賞者
- 1999年度～1990年度 ★受賞者
- 1989年度～1980年度 ★受賞者
- 1979年度～1970年度 ★受賞者
- 1969年度～1960年度 ★受賞者
- 1959年度～1950年度 ★受賞者
- 1949年度～1940年度 ★受賞者
- 1939年度～1929年度 ★受賞者
- 朝日賞特別賞 ★受賞者



▲賞牌のブロンズ像

【作 者】佐藤忠良氏（彫刻家、1988年度朝日賞受賞）【作品名】陽(よう)

@asahi_csrさんのツイート

朝日新聞社CSR推進部さんがリツイートしました

新国立劇場くオペラ @nntt_opera

本日の朝日新聞朝刊に「トゥーランドット」レビューが掲載されています。映画監督の行定勲さんの視点は？
トゥーランドット、ハッピーエンドでない救済 新国立劇場など、新解釈で制作
行定勲さん語る：朝日新聞デジタル
asahi.com/articles/DA3S1...
#新国立劇場オペラ

朝日新聞文化財団とは

朝日新聞文化財団は、1992年5月に一般財団法人として創設されました。朝日新聞社からの寄付10億円を基本財産に、「音楽・美術分野への助成」と「朝日賞の贈呈」を通じて、わが国の文化・芸術・学術のさらなる発展に寄与してまいりました。その後、1998年には音楽祭「大阪国際フェスティバル」の運営を引き継ぎ、2008年にはテレビ朝日や朝日新聞社の株式の寄贈を受けて「文化財保護への助成」を始め、より一層、社会貢献の幅を広げることができました。2011年4月1日には、「公益財団法人 朝日新聞文化財団」と名称を改めました。

【主な事業内容】

1. 音楽会、美術展覧会等の事業に対する助成
2. 文化財の保護等のための事業・活動に対する助成等
3. 文化・芸術・学術等の発展、向上に寄与した者に対する顕彰（朝日賞の贈呈）
4. 音楽会等の公演の主催（大阪国際フェスティバルの開催）

【→ 朝日新聞文化財団ホームページ (<http://www.asahizaidan.or.jp/>) 】

主催 朝日新聞文化財団

トゥーランドット、ハッピーエン...
古代の北京が舞台のブッチーニ...
asahi.com

4時間

埋め込む

Twitterで表示

会社案内	サービス	CSR	SDGs	イベント・賞	140周年
トップメッセージ	新聞・デジタルサービス	環境のために	最新的话题	高校野球	記念事業について
会社情報	美術展・展覧会のご案内	未来のために	SDGsについて	吹奏楽コンクール	ともに考える
アクセスマップ	主催イベント	社会のために	持続可能な社会へ向けて	合唱コンクール	歴史
朝日新聞社 役員一覧・組織図	お問い合わせ	グループとともに	報道で見るSDGs	美術展・展覧会のご案内	文化事業
グループ企業	ニュース提供	従業員とともに	2030SDGsで変える	スポーツイベントのご案内	スポーツ
会社案内PDF	投稿したい	復興支援	グループの取り組み	ダンスコンクール	周年事業の沿革
報道トピックス	記事検索			朝日賞	
朝日新聞づくり	ホール・会議室貸し出し			手塚治虫文化賞	
朝日新聞小史	記事や写真の転載・ご利用			朝日スポーツ賞	
会社見学（本社・工場）	記念日新聞			大佛次郎賞	
ガバナンス	広告掲載のご案内			朝日広告賞	
	法人様向け配信事業			朝日国際児童図書普及賞	

【個人情報について】



朝日賞 (人文) 推薦票



業績の題目	
-------	--

ふりがな				所属・職名など
候補者 (ふさわしいと思う方)				
略歴 ※略歴、連絡先、生年月日はご存知であればご記入下さい。				
連絡先	住所			
	TEL		FAX	
生年月日	19	年	月	日生 () 歳

ふりがな				所属・職名など
推薦者				
自宅	住所	〒		
	TEL		FAX	
	E-mail			
勤務先	住所	〒		
	TEL		FAX	
	E-mail			

※ご記入いただいた個人情報は、朝日賞の選考および表彰に伴うご連絡以外には使用いたしません。
 ※この推薦票1枚につき候補者1名(または1団体)のご記入をお願いします。
 ※「推薦者」の欄には、朝日新聞社からこの推薦票をお送りした方の名前・団体名をご記入ください。
 ※候補者のご推薦は、推薦者お一人につき原則1名(1団体)、最大2名までとさせていただきます。
 ※ご推薦の締め切りは8月26日(月・必着)です。

推薦理由（簡単で結構です）

近年目立った業績（お分かりになる範囲で結構です）

令和2年度 国立歴史民俗博物館 共同研究公募要項

1. 趣旨

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館が実施する共同研究は、歴史学、考古学、民俗学及び分析科学を含む関連諸学との学際協業によって日本の歴史と文化について実証的な研究を行うものです。大学共同利用機関として、さらに共同利用性を高め、大学等の研究・教育に供するため、共同研究を館内外に広く公募することとします。

2. 公募する共同研究

令和元年度は以下の共同研究の公募を行います。

(1) 基幹研究

基幹研究は、本館の取り組む中心的な研究テーマのもとに、学際的研究を実施する共同研究です。

基幹研究には、①「先端的な歴史研究の開拓をめざす資料論的かつ方法論的な挑戦的研究」、②「日本の歴史と文化を広く通史的な視点に立って研究する現代的課題研究」、の2つの枠組みがあります。①については、学際的で国際的な視点を重視して歴史研究自体の革新をめざすテーマが求められます。②については、学界をリードし、かつ学際的で、社会的状況・要請にも応えられるようなテーマが求められます。また、この基幹研究では特に研究成果の高度化・可視化が求められます。

現在本館では次の2つの基幹研究を実施しています。

- ・基幹研究 I 「近代日本社会の形成・展開についての学際的・国際的研究」（平成30年度～）
- ・基幹研究 II 「水と人間の日本列島史」（平成30年度～）

令和元年度は、このうち基幹研究 II の研究課題を募集します。

基幹研究 II の趣旨

人間と環境の未来に対する危機を克服していくため、過去を検証して歩むべき方向性を導き出す歴史的思考の営みがますます重要になっています。そこで、人間と環境をつなぐ命綱ともいべき水に、人間がいかに関わりつつ社会や文化を形作ってきたのかという視点から、日本列島のさまざまな時代や地域の営みを、多彩な学問的手法で長期的かつ国際的に位置づけられる研究を募集します。

なお、基幹研究 II については「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化形成」（平成31～令和3年度）が、1つのブランチ（班）としてすでに採択・開始されています。

公募する研究課題	基幹研究 II 「水と人間の日本列島史」に関する研究課題
研究期間	令和2年度より3年間
研究会開催	年間3～4回。国立歴史民俗博物館 他

研究代表者	研究代表者は、研究計画の立案、研究会の主宰、研究成果の取りまとめを行う。また、年度毎に報告書を提出し、研究期間終了後に行われる成果報告会に原則として出席し、報告を行う。
研究副代表者	本館教員をあてること。
研究組織	15人程度。 共同して研究を遂行することが可能な研究者、及び本館教員
研究経費	年間上限270万円程度（旅費、消耗品 他）
採択予定件数	1件

(2) 基盤研究1（課題設定型）

考古・歴史・民俗資料の研究資源化、高度情報化を主要な目的として実施する学際的研究で、新しい研究視点、研究手法などの研究基盤の新構築を目指す共同研究です。研究代表者が研究課題を自由に設定することができます。

ただし、国立歴史民俗博物館が取り組む「博物館型研究統合」や「総合資料学」に貢献できる研究課題であることを条件とします。

公募する研究課題	考古・歴史・民俗資料の研究資源化、高度情報化を主要な目的として実施する学際的研究
研究期間	令和2年度より3年間
研究会開催	年間3～4回。国立歴史民俗博物館 他
研究代表者	研究代表者は、研究計画の立案、研究会の主宰、研究成果の取りまとめを行う。また、年度毎に報告書を提出し、研究期間終了後に行われる成果報告会に原則として出席し、報告を行う。
研究副代表者	本館教員をあてること。
研究組織	10人程度。 共同して研究を遂行することが可能な研究者、及び本館教員
研究経費	年間上限225万円程度（旅費、消耗品 他）
採択予定件数	2件

(3) 基盤研究2（館蔵資料型）

本館の収蔵資料を対象とした研究課題と研究計画を提案する共同研究です。対象となる資料は、下表の「候補となる館蔵資料一覧」をご覧ください。

公募する研究課題	本館が指定する収蔵資料に関連する共同研究（以下の候補から選択）
候補となる館蔵資料一覧	<ul style="list-style-type: none"> ① 正倉院文書（複製）の活用に関する研究（歴史研究系 小倉准教授） ② 浅川伯教収集朝鮮半島窯跡出土陶磁器コレクション（考古研究系 村木准教授） ③ 廣橋家本所収古記録・典籍類（歴史研究系 田中准教授） ④ 聆涛閣集古帖にもとづく研究（研究部 三上教授）

	⑤京都町方文書（長刀鉾町文書）をはじめとする近世都市史関係史料（歴史研究系 横山教授）
研究期間	令和2年度より3年間
研究会開催	年間3～4回。国立歴史民俗博物館 他
研究代表者	研究代表者は、研究計画の立案、研究会の主宰、研究成果の取りまとめを行う。また、年度毎に報告書を提出し、研究期間終了後に行われる成果報告会に原則として出席し、報告を行う。
研究副代表者	本館教員をあてること。
研究組織	10人程度。 共同して研究を遂行することが可能な研究者、及び本館教員
研究経費	年間上限225万円程度（旅費、消耗品 他）
採択予定件数	1件

3. 応募資格

- (1) 国内外の大学その他の研究機関に勤務する研究者（常勤、非常勤を問わない）
- (2) (1)と同等の研究能力を有する研究者（大学院生は除く）

4. 申請手続き

共同研究計画については、「令和2年度国立歴史民俗博物館共同研究計画書」（以下よりダウンロードしてください）を作成し、それぞれ所属長の承認を得て提出してください。

[共同研究計画書ダウンロード（本館WebページURL）]

http://www.rekihaku.ac.jp/research/list/joint/public_ad/index.html

なお、申請及び計画書の作成にあたっては、研究副代表者となる本館教員に事前に連絡し、研究内容、方法等に関して十分に打ち合わせをしてください。本館教員の連絡先については、研究協力課研究教育係にお問い合わせください。

5. 申請書類の提出方法

申請書類（共同研究計画書）の電子データを「10. 問い合わせ先」のメールアドレス宛に添付してお送りください。（電子メールでご提出ください。）

6. 計画書の提出期限

令和元年8月30日（金）必着

7. 選考及び選考結果の通知

共同研究計画書に基づき、9月に第一次審査（本館教員及び運営会議共同研究委員会外部委員による書面審査、本館でのヒアリング）を、11月中旬～12月中旬頃に第二次審査（運営会議共同研究委員会でのヒアリング）を行い、運営会議の審議を経て館長が決定します。選考結果は、決定後速やかに申請者に通知します。

また、選考の結果、採択されなかった申請者の計画書等は返却しません。

8. 施設等の利用

共同研究員は、国立歴史民俗博物館の図書資料、収蔵資料、コンピューター及び各種研究機器を利用することができます。

9. 研究成果報告

- ・年次報告書は毎年提出していただきます。
- ・基幹研究については、研究成果のまとめとして、2ブランチ（班）の連携による研究集会や展示等の開催を奨励します。
- ・共同研究終了後、3年以内に歴博の研究成果として、報告書（『国立歴史民俗博物館研究報告』）を刊行していただきます。

10. 問い合わせ先

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117

大学共同利用機関 人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館 管理部研究協力課研究教育係 共同研究公募担当者 宛

TEL 043-486-6473

FAX 043-486-6494

E-mail kenkyo@ml.rekihaku.ac.jp



第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会連携事業

文化ふっとつ新潟!

諸橋轍次の愛した
漢詩の世界へようこそ



漢字文化を次代へ

第11回 諸橋轍次博士記念漢詩大会

募集要項

応募締め切り

令和元年8月31日(土)

漢詩大会

記念講演会

令和元年11月16日(土)午後2時～3時30分

表彰式・流觴曲水等

令和元年11月17日(日)午前10時～午後1時

会場

諸橋轍次記念館

第11回 諸橋轍次博士記念漢詩大会 募集要項

明治16(1883)年に下田村庭月(現在の三条市庭月)に生まれた諸橋轍次は、漢学研究に情熱を傾け昭和57(1982)年に数え年百歳で亡くなるまで漢字文化の伝統を研究しました。また同時に伝統を単に古いものとして示すのではなく、『大漢和辞典』をはじめとする多くの著書をつうじて、現代社会に役立つものとして意義を示しました。

諸橋轍次の生誕地を中心に漢学の里を整備する三条市諸橋轍次記念館では、その志を継承すべく下記募集要項により全国の皆様から漢詩を募集いたします。

1: 応募資格 どなたでもご自由に応募いただけます。

2: 応募条件

- (1) 詩体は七言絶句のみとします。
- (2) 題は自由題とします。
- (3) 書き下し文(ふりがな付き)を併記してください。
- (4) 1人2首まで応募できます。
- (5) 未発表の作品に限り応募できます。

3: 応募方法 郵送・インターネットのいずれかの方法でご応募ください。

○郵送

募集要項に添付した応募用紙を用いてください。

※応募用紙は第11回諸橋轍次博士記念漢詩大会ホームページからダウンロードできます。

宛先 〒955-0131 新潟県三条市庭月434-1 諸橋轍次記念館 漢詩大会係

○インターネット

下記の手順で投稿してください

1 morotetsu34@gmail.com に空メールを送信してください。

2 上記アドレスからの自動返信メールに記載された投稿フォームにアクセスしてください。

3 投稿フォームに必要な事項を入力してください。

*投稿フォームはパソコン、スマートフォンに対応しています。

*morotetsu34@gmail.com は投稿専用メールアドレスです。

4: 応募料

一般	一首1,000円
学生・生徒	無料

応募料のお支払いは、郵便払込取扱票による方法のみの受付となりますのでご注意ください。

郵便振替口座、加入者名は下記のとおりです。

郵便払込取扱票

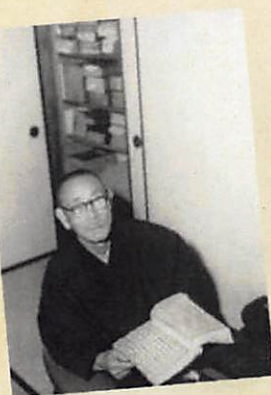
郵便振替口座 00530-2-103665

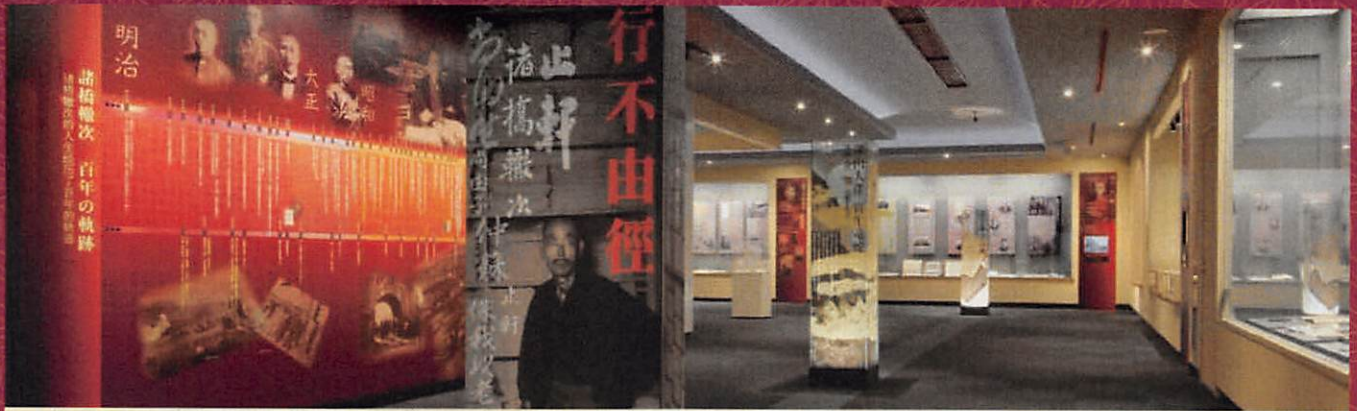
加入者名 諸橋轍次記念館

5: 応募受付期間

令和元年7月1日(月)から8月31日(土)までとします。

郵送の場合は締め切りの8月31日当日消印まで有効。





諸橋轍次記念館

6:入賞(予定)

最優秀賞(諸橋轍次賞)、新潟県知事賞、新潟県教育委員会教育長賞、優秀賞、秀作賞、奨励賞、特別賞(中華人民共和国駐新潟総領事賞)等
 *全入賞作品を掲載した記念の作品集を応募者全員に無料配布します。
 *入賞者には記念品を贈呈。

7:審査員

審査員長	大地武雄	二松學舎大学名誉教授
審査員	鷺野正明	国士舘大学教授
審査員	後藤淳一	二松學舎大学講師

8:審査

審査選考は審査員の責任と権限において合議で行い、入賞作品を決めます。審査についての問い合わせおよび異議は受理いたしません。

9:発表

令和元年10月上旬(予定)、漢詩大会特設ホームページで発表。入賞者には個人宛に通知。

10:大会日程(予定)

記念講演会	令和元年11月16日(土)	午後2時~3時30分
漢詩愛好者の集い	令和元年11月16日(土)	午後6時~8時
(懇親会)	*会場 嵐溪荘	参加費6,000円
表彰式・流觴曲水等	令和元年11月17日(日)	午前10時~午後1時
(雨天中止)		

11:返却

応募作品は返却しません。投稿作品の控えはご自身でコピーしてください。

12:著作権と出版権

作品の著作権は著作者本人に帰属します。ただし諸橋轍次記念館の広報活動のための出版物・ホームページなどに無償で活用させていただきます。当館刊行物以外の出版物へ転載する場合は著作者の同意を前提とします。

13:個人情報

応募者から提供された個人情報は今後の諸橋轍次博士記念漢詩大会の公募告知および諸橋轍次記念館の各種事業の告知に利用することがあります。入賞者については、応募票に記載された氏名、雅号、都道府県・市町村名を作品集に記載するほか、報道機関・関係機関に提供する場合があります。

14:作品送付・問い合わせ

諸橋轍次記念館 漢詩大会係
 住所 〒955-0131 新潟県三条市庭月434-1
 TEL・FAX 0256-47-2208
 E-mail kangaku@city.sanjo.niigata.jp
 諸橋轍次博士記念漢詩大会特設ホームページ
<https://www.kangaku-morohashi.com/course/諸橋轍次博士記念漢詩大会>
 ※上記サイトより募集要項・応募用紙をダウンロードできます。

記念講演

- ・日時 令和元年11月16日(土)午後2時～3時30分
- ・会場 諸橋轍次記念館 (入場無料)
- ・講師 二松學舎大学名誉教授 大地 武雄 先生
- ・演題 「漢詩の楽しみ」



諸橋轍次記念館



流嶺曲水

主催・後援・事務局

- (1)主催 諸橋轍次記念館
- (2)後援 中華人民共和国駐新潟総領事館、新潟県、(株)大修館書店、新潟県教育委員会、読売新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、新潟日報社、三條新聞社、越後ジャーナル社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCT、産経新聞社新潟支局、日本経済新聞社新潟支局
- (3)運営事務局 諸橋轍次記念館漢詩大会係
(お問い合わせ先)
〒955-0131 新潟県三条市庭月434-1
TEL・FAX 0256-47-2208
E-mail kangaku@city.sanjo.niigata.jp



- 北陸自動車道 三条燕インターから.....車で50分
- 上越新幹線 燕三条駅から.....車で50分
- 信越線・弥彦線 東三条駅から.....車で35分
- 越後交通バス 東三条駅前から.....40分
(八木ヶ鼻温泉行き、諸橋轍次記念館前下車)



ホームページ <https://www.kangaku-morohashi.com/course/諸橋轍次博士記念漢詩大会>



整理番号

[Empty box for organization number]

←主催者使用欄
(記入しないでください)

第 11 回 諸橋轍次博士記念漢詩大会 応募用紙

「※」印の項目は必ず記入してください。

申込区分※	一般	学生
学校名		

応募数※	1首	2首
------	----	----

申込区分・応募数を「○」で囲んでください。
学生・生徒は学校名をご記入願います。

ふりがな	
氏名※	
ふりがな	
雅号	
住所※	〒 _____
連絡先※	電話 F A X Eメール
生年月日 (年齢)	明大昭平 年 月 日生 (歳) (西暦 年)

(注) 生年は和暦、西暦のいずれかでご記入願います。

意向をお聞かせ願います

■記念講演会 11月16日(土) 1 参加 2 不参加
■記念講演会送迎バス利用 11月16日(土) 1 利用したい 乗車場所 (燕三条駅・東三条駅) 2 利用しない
■漢詩愛好者の集い(懇親会) 11月16日(土) 参加費 6,000円 1 参加 2 不参加

応募料払込証明貼付

郵便振替払込受領証の 写しを貼付して下さい

(注) 1 各項目の番号に「○」を付してください。
 2 記念講演会送迎バスは、「燕三条駅 ⇄ 東三条駅 ⇄ 諸橋轍次記念館」間です。(無料運行)
 3 運行時刻は、後日利用者へ連絡します。

整理番号

--

←主催者使用欄
(記入しないでください)

				題目	漢文(楷書で丁寧に書いてください)

				題目	書き下し文(ふりがなをつけてください)

第十一回 諸橋轍次博士記念漢詩大会 応募用紙(一首目)

整理番号

--

←主催者使用欄
(記入しないでください)

						漢文(楷書で丁寧に書いてください)
					題目	

						書き下し文(ふりがなをつけてください)
					題目	

第十一回 諸橋轍次博士記念漢詩大会 応募用紙(二首目)

第10回 言の葉大賞[®]

作品募集中!

応募用紙はHPよりダウンロードできます。

募集テーマ

「失敗から」学んだこと

募集内容

募集要項：日本語の自作未発表で、お一人1作品に限ります。複数応募は無効とします。

手書きの文章(手紙・作文)で800字以内
濃くハッキリと書いてください。

また、やむを得ない場合のみパソコン等による作成でも可とします。
応募いただく用紙はホッチキス等を使わずに、できるだけ1作品1枚でご応募ください。

資格：小学生以上の方ならどなたでもご応募いただけます。

応募方法：【小・中・高校の部】

用紙は、言の葉大賞ホームページよりダウンロードできる専用応募用紙と団体応募シートをご使用ください。なお、ご自身で用意される場合は、市販の原稿用紙に必要な事項を明記のうえ、右記応募先まで送付ください。

※必要事項：団体応募シートには学校名、先生のお名前(ふりがな)、先生のメールアドレス、学校の住所、電話番号を記入の上、クラスや学校単位で取りまとめたいただき、一括りに1枚添付して下さい。
原稿用紙には生徒の氏名(ふりがな)、タイトル、生年月日、年齢、性別を記入して下さい。

【大学/専門学校・一般の部】

用紙は、言の葉大賞ホームページよりダウンロードできる応募用紙をご使用ください。なお、ご自身で用意される場合は、市販の原稿用紙に必要な事項を明記のうえ、右記応募先まで送付ください。

※大学/専門学校の部必要事項：学校名、学部、学科、学年、お名前(ふりがな)、タイトル、生年月日、年齢、性別、住所、電話番号

※一般の部必要事項：お名前(ふりがな)、タイトル、生年月日、年齢、性別、住所、電話番号、職業

応募先：〒601-8121 京都市南区上鳥羽大物町19 柿本商事株式会社 気付「言の葉大賞事務局」宛

募集期間：2019年5月1日(水)～2019年9月30日(月) (当日消印有効)

賞：【小・中・高校】 言の葉大賞、最優秀賞、優秀賞、入賞
【大学/専門学校 一般の各部】

【団体応募校】 学校賞 ※各賞には副賞を贈呈します。

受賞者発表：2020年1月下旬

入賞以上の方々に連絡させていただきます。

授賞式：2020年3月20日(金・祝)

「言の葉大賞」ホームページにて発表。

ところ：国立京都国際会館 (京都市左京区宝ヶ池)

お問い合わせ：言の葉大賞事務局

E-mail : info5108@kotonoha-taisho.jp

TEL 075-662-6058 (平日 9:30～17:00)

FAX 075-682-5385

言の葉大賞 検索 <http://www.kotonoha-taisho.jp>

〈著作権について〉

応募作品の全ての著作権は、一般社団法人 言の葉協会に帰属するものとし、応募作品は返却いたしません。

〈個人情報について〉

応募者の個人情報は「言の葉大賞」に関する発表や連絡、賞品の発送、また、印刷物など応募作品の利用における応募者表示以外の目的には使用せず、適正な管理に努めます。

【主催】 一般社団法人 言の葉協会

【共催】 柿本商事株式会社 言の葉大賞実行委員会

【後援】 内閣府 外務省 文部科学省

京都府 京都市 京都府教育委員会 京都市教育委員会 京都商工会議所
北海道新聞社 京都新聞 NHK京都放送局 KBS京都 日本郵便株式会社

【協賛】 王子製紙株式会社 旭洋株式会社 日本紙パルプ商事株式会社

株式会社レイメイ藤井 大王製紙株式会社

日商岩井紙パルプ株式会社 株式会社永谷園ホールディングス

ファーバーカステル日本総代理店 コーチャンフォグループ 合資会社ホリホールディングス
DKSHジャパン株式会社 株式会社リリアブル 株式会社北葉楼

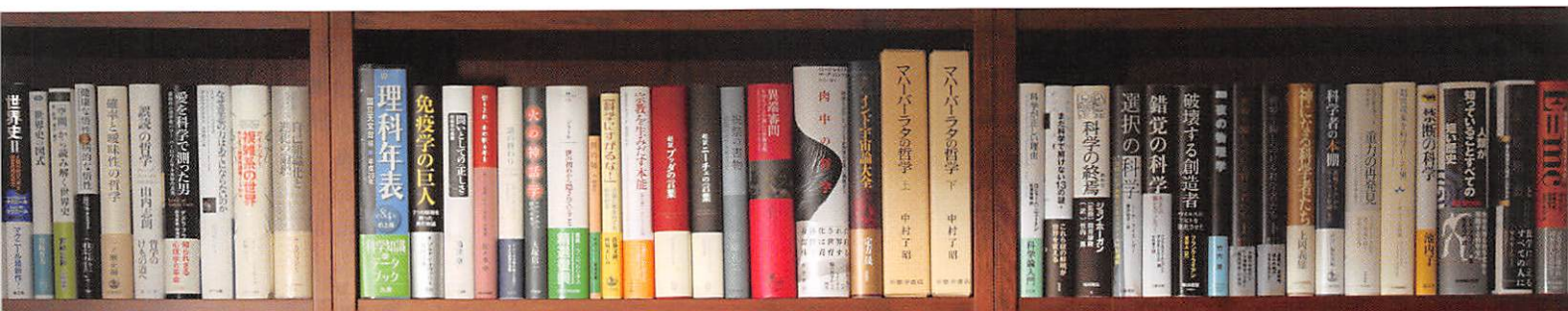


ホームページ

<http://www.kotonoha-taisho.jp/kototsure/>

Facebook

言の葉の徒然 FB で検索



言の葉大賞

応募について

募集要項

[募集要項](#) [応募の流れ](#)

第10回 募集テーマ

「失敗から」学んだこと

「言の葉大賞」はコミュニケーションを大切にした教育支援事業です。
800字の文字を通して産み出される皆さんの大切な気持ちが力強く綴られてきました。
今回も、思いの言葉を一語、一語、丁寧に綴ってください。
皆さんの力強い気持ちがメッセージとなります。

募集要項

募集要項

日本語の自作未発表で、お一人1作品に限ります。複数応募は無効とします。

- 手書きの文章（手紙・作文）で800字以内
- 濃くハッキリと書いてください。
- また、やむを得ない場合のみパソコン等による作成でも可とします。
- 応募いただく用紙はホッチキス等を使わずに、できるだけ1作品1枚でご応募ください。

応募方法

■ 小・中・高校の部

用紙は、専用応募用紙と団体応募シートをダウンロードしてご使用ください。なお、ご自身で用意される場合は、市販の原稿用紙に必要事項を明記のうえ、応募先まで送付ください。

[専用応募用紙（小・中・高校）](#)[団体応募シート（小・中・高校）](#)

言の葉大賞

取りまとめていただき、一括りに1枚添付して下さい。原稿用紙には生徒の氏名（ふりがな）、タイトル、生年月日、年齢、性別を記入して下さい。

■ 大学/専門学校・一般の部

用紙は、応募用紙をダウンロードしてご使用ください。なお、ご自身で用意される場合は、市販の原稿用紙に必要な事項を明記のうえ、応募先まで送付ください。

[応募用紙（大学/専門学校）](#) >[応募用紙（一般）](#) >[団体応募シート（大学/専門学校）](#) >

大学/専門学校の部必要事項

学校名、学部、学科、学年、お名前（ふりがな）、タイトル、生年月日、年齢、性別、住所、電話番号

一般の部必要事項

お名前（ふりがな）、タイトル、生年月日、年齢、性別、住所、電話番号、職業

言の葉大賞

小学生以上の方ならどなたでもご応募いただけます。

〒601-8121 京都市南区上烏羽大物町19 柿本商事株式会社 気付
「言の葉大賞事務局」宛

募集期間

2019年5月1日（水）～2019年9月30日（月）

※当日消印有効

賞

小・中・高校、大学/専門学校、一般の各部
言の葉大賞、最優秀賞、優秀賞、入賞

団体応募校

学校賞

受賞者発表

2020年1月 下旬

入賞以上の方々に直接連絡させていただきます。

授賞式

2020年 3月20日（金・祝）

国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）

募集要項

著作権について

応募作品の全ての著作権は、一般社団法人 言の葉協会に帰属するものとし、応募作品は返却いたしません。

個人情報について

応募者の個人情報は「言の葉大賞」に関する発表や連絡、賞品の発送、また、印刷物など応募作品の利用における応募者表示以外の目的には使用せず、適正な管理に努めます。

お問い合わせ

言の葉大賞事務局

TEL : 075-662-6058（平日 9:30～16:30） FAX : 075-682-5385

フォームでのお問い合わせ



[言の葉大賞を知る](#) [言の葉大賞で育む](#) [言の葉大賞にぶれる](#) [受賞作品について](#) [言の葉協会とは](#) [応募について](#)
[お問い合わせ](#)





地域から発信する日本文化

第13回 森田杯・英文毎日杯 日本語文化 英語プレゼン コンテスト

ペアで紹介する

2019 12.14 土
午後1時より

- 賞品**
- 優勝 チーム** 森田杯 ロンドンまたはニューヨーク往復航空券
図書カード3万円
 - 第2位 チーム** 英文毎日杯 グアム往復航空券
図書カード2万円
 - 第3位 チーム** 英文毎日杯、図書カード1万円
国内旅行券
 - 次点 チーム** 図書カード5,000円
ホテル宿泊券(京都)

※本選出場者全員に参加賞とし「TOEIC® Speaking & Writing 公式テストの解説と練習問題」、毎日ウィークリーの購読券などが贈られます。



WEBサイトへ
アクセス!

ペアで紹介する
日本語文化英語プレゼンコンテスト

http://www.kufs.ac.jp/faculties/unv_english.html

会 場 京都外国語大学 1号館7階 小ホール(R171)

募集期間 2019年9月1日(日)～10月10日(木)

応募方法 京都外国語大学外国語学部英米語学科ホームページの「ペアで紹介する日本語文化英語プレゼンコンテスト」から大会要項、応募用紙をご覧ください。
http://www.kufs.ac.jp/faculties/unv_english.html
またはポスター左のQRコードからアクセスできます。

応募資格 英語を母語としない学生(大学生・短期大学生・専門学校生・高等専門学校4・5年生)
ただし本コンテストにおいて過去に入賞したチームの出場者は除く。

形 式 日本文化をテーマに、実物(または写真)を提示しながら2人1組で発表するユニークな英語プレゼンコンテスト。

お問合せ

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学外国語学部英米語学科
ペアで紹介する日本語文化英語プレゼンコンテスト実行委員会(担当教員 小野)
Eメール/p_precon@kufs.ac.jp TEL/075-322-6774(平日10:00～17:00)学部事務室

主催 京都外国語大学外国語学部英米語学科
後援 京都市、大学コンソーシアム京都、毎日新聞社
協賛 THEWESTIN MIYAKO KYOTO ウェスティン都ホテル京都

IIBC You Connect the World. 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

協力: 文化庁 地域文化創生本部



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies
京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages



第四回 かつしか文学賞

舞台は葛飾。
心はなしに響く小説をください。

広く作品を募集します。

葛飾区を舞台とした小説を募集します。大賞に輝いた作品は、脚本化され舞台公演等で発表する予定です。たくさんのご応募をお待ちしています。

「第4回かつしか文学賞」募集要項

■募集作品 未発表の小説。日本語で書かれ、葛飾区を舞台にそこに暮らす人々のふれあいを題材とした作品。

■規定 ワープロ(パソコン)を使用し、字数は30字×40行で10枚以上100枚以内(400字詰め原稿用紙換算30枚以上300枚以内)です。

文字は明朝体でフォントサイズは10.5ポイント、A4横の用紙に縦書き、ページ番号を入れ右綴じをしてください。表紙に下記(1)~(6)を、2枚目に(1)と(7)を明記の上、本編を添えて簡易書留またはレターバックにて郵送または、専用WEBサイトより原稿添付にてご応募ください(持参していただいても受付いたしません)。

(1)作品タイトル (2)氏名およびフリガナ(ペンネームを使用する場合はペンネームを併記) (3)生年月日 (4)職業または学校名 (5)郵便番号および住所 (6)電話番号、ファクス番号およびメールアドレス (7)あらすじ(500字程度)

■応募資格 原作(応募作品)を脚本化(シナリオ化)することに同意していただけの方。

■賞 大賞:賞金100万円と記念品/優秀賞(3点まで):賞金10万円と記念品。受賞作品については、受賞作品集として出版し、葛飾区内公共施設に設置するほか、葛飾区役所、かつしかシンフォニーヒルズ等で販売する予定です。また、大賞作品は脚本化後、葛飾区民が参加する形で舞台等の発表が予定されています。

■締切 令和元年10月7日(月)消印有効

■発表・表彰 令和2年3月8日(日)

*受賞者には表彰式への出席をお願いします。東京新聞紙面、葛飾区及びかつしかシンフォニーヒルズのホームページ等で発表いたします。

*最終ノミネート作品は、令和2年1月頃にかつしかシンフォニーヒルズのHP等で発表いたします。

■選考委員 増田恵美子(東京新聞 文化部長)、山口恵以子(作家)、松久淳(作家)

■主催 葛飾区、葛飾区文化施設指定管理者(キョード東京共同事業体)

■後援 葛飾区教育委員会、東京新聞

■協力 京成電鉄、J:COM東葛・葛飾、かつしかFM78.9MHz

■諸権利 受賞作品の著作権(著作権法第27条、第28条に定める権利を含む)、出版権は葛飾区に帰属します。

■備考 応募作品の訂正、選考に関する問い合わせには応じません。応募作品は返却しません。既に他の公募企画へ応募した作品、ホームページなどに発表した作品の応募は無効です。受賞作品決定後でも他の公募企画への応募や既発表が判明した場合は、受賞を無効とし、賞金を返還していただきます。応募された方の個人情報は、本賞に関する事務処理のみの目的で使用します。詳細はお問い合わせください。

■応募先 〒124-0012 葛飾区立石6-33-1 かつしかシンフォニーヒルズ
「第4回かつしか文学賞作品募集係」

WEB応募:<https://www.koubo.co.jp/system/contest/katsushika>

■お問い合わせ先 かつしかシンフォニーヒルズ

電話:03-5670-2222

eメール:bunka@k-mil.gr.jp

または 葛飾区地域振興部文化国際課

電話:03-5670-2259



2020年度

第15回 児童教育実践についての研究助成 応募要項

ことばの力が、子どもたち一人ひとりの生きていく力につながるように。
当事業では、子どもたちのあらゆる成長の礎となる「ことばの力」を育む研究や、
児童教育実践の質を向上させる研究を助成しています。

このたび、Webにて応募受付を開始いたしました。
児童教育の研究活動をされている皆さま、最前線で日々子どもたちと向き合う
教育現場に携わる皆さま方からのたくさんのご応募をお待ちしております。

2019年7月1日

1. 目的

この事業は、「ことばの力」を通じて子どもたちの生きる力を育むことを目的として、児童教育の質を向上させる実践的研究を支援しています。

研究が深化・拡大し、その成果が教育実践の場に反映されることを通して、児童教育の基盤を充実させることを目指しています。

学術研究の発展に貢献し、教育実践の改善に役立つ研究の応募を期待しています。

2. 助成の対象

① 対象となる研究

子どもたちのあらゆる成長の礎となる「ことばの力」を育む研究や、児童教育実践の質を向上させる研究を助成します。

※対象は小・中学生となります。ただし、児童教育への反映が明確な場合に限り、幼児教育、高校生に関する研究も可とします。

◎ 「ことばの力」を育む研究

- ・ 国語・日本語教育の諸分野における研究
- ・ あらゆる学びの場におけることばの教育に関する研究

[研究内容例]

- ・ 考える、話す、聞く、読む力を育成する教育
- ・ 外国人児童の日本語学習に関する研究
- ・ 教科を越えた学力向上のためのことばの教育
- ・ 特別支援教育でのことばの教育 等

◎ 児童教育実践の質を向上させる研究

- ・ 多様な場における教育実践の質を向上させる研究

[研究内容例]

- ・ 学びに向かう力を高める研究
- ・ 革新的な学校・授業改革
- ・ 新しい教育テーマ・方法の開発
- ・ 新しい学びの場の創造 等

② 応募資格

下記のいずれかに該当する方を対象とします。

- ・ 日本の大学・研究機関に所属する研究者（例えば准教授、講師、助教、博士課程の院生等。若手支援のため、教授やそれに相当する職は除く。）
- ・ 日本の学校・教育委員会に所属する教育実践に携わる方（例えば教諭、指導主事、相談員、特別支援教育の支援員等。）

※ 常勤・非常勤、年齢、国籍、学位は不問（ただし、学生の場合は修士号取得以上とする）。

※ 個人研究、グループ研究ともに可。グループ研究の場合は、全員が応募資格に適すること。また、助成期間終了まで応募資格を有していること。

【応募に際しての注意】

- 研究（代表）者は、研究を計画・実施する中心的な存在であること。途中交代できません。
- 原則、研究（代表）者の所属機関の長（研究科長、学部長、学校長、教育長等）あるいは指導教官（学生の場合）からの推薦が必要です。
 - ※ 推薦者は、応募者と研究内容、応募要項を理解し、責任をもって推薦する第三者でなければなりません（自薦、共同研究者からの推薦は不可）。
 - ※ 確認のために推薦者に連絡をとらせていただきます。
- 当研究助成の助成期間中に、他の機関から助成を受ける（申請中を含む）場合
 - ※ 同じ研究テーマで他資金を受ける場合も、当助成に応募可能。ただし、応募する研究は、他資金で行う研究とは実施する課題や研究方法において異なり、独立して遂行され、個別の成果を達成するものでなければなりません。当助成金と他資金を合わせた使用は不可。
 - ※ 他の機関から助成を受けている場合は、その機関が他資金を認めているかについても、ご注意ください。

3. 助成金・助成期間について

① 助成期間

- 1年間または2年間とします。応募時に選択のうえ、申請してください。

② 助成金額

- (1ヵ年助成) …… 1件につき 200 万円を限度に助成します。
- (2ヵ年助成) …… 1件につき 300 万円を限度に助成します。

③ 助成金の交付日と助成期間、会計報告日

- 助成金交付日 2020年4月1日
- 助成期間 2020年4月1日から1年間または2年間(助成金使用可能期間)
- 会計報告日
 - (1ヵ年助成) …… 2021年5月10日まで
 - (2ヵ年助成) …… 2022年5月10日まで(1年経過後に中間報告の必要があります)

④ 助成対象となる費用

- 助成期間内に行う研究に直接関係する費用であり、かつ本要項P.7の「研究助成金費目一覧」に記載されている費目に限ります。

⑤ 助成金の管理と注意事項

- 助成金は研究（代表）者の個人管理が原則です。
- 都合により所属機関が助成金を管理する場合でも、間接経費、一般管理費（光熱給水費等）は原則として認められません。また、会計管理・報告等にあたり、当財団が提示する条件をご了解いただけない場合は、助成決定を取り消すこともあります。

- 助成期間終了後、残金がある場合は返金していただきます。
- 研究（代表）者と当財団が締結する覚書が遵守されない場合、助成金総額を返還していただくこともあります。

4. 選考方法と採否通知・公表

① 選考方法

応募情報をもとに審査委員会において選考し、助成対象と助成金額を決定します。

※ 審査結果により、助成金額は申請額から変更される場合があります。

② 選考の際の重視点

- 研究成果が児童教育の実践に明確な提言をもつか
- 研究成果に実証性をもたせられる計画か
- 研究計画が綿密で実行可能性があるか
- 研究の着眼点や研究方法に独自性はあるか
- 研究に社会的価値・波及効果・将来性はあるか
- 助成金の使途内訳の適否
- 倫理的配慮がなされているか

③ 審査委員

委員 長	本郷 一夫	東北大学大学院 教授
(五十音順)	楠見 孝	京都大学大学院 教授
	針生 悦子	東京大学大学院 教授
	藤森 裕治	信州大学 教授
	横山 詔一	国立国語研究所 教授

④ 採否通知・公表

2020年2月下旬、応募した研究（代表）者全員にEメールで通知します。「@hakuhofoundation.jp」からのメールを受け取れるよう設定をお願いします。

採択された場合、研究（代表）者の氏名、所属機関・役職、研究タイトル、概要等を公表します。

※ 採否の理由のお問い合わせには応じかねますのでご了承ください。

5. 研究（代表）者の義務

助成決定時から研究成果発表会までの間、以下の義務が発生します。

- ① 説明会への出席と「覚書」の締結（2020年3月）
助成開始前の説明会へのご出席と、当財団との「覚書」の締結をお願いします。
- ② 変更時の連絡
研究（代表）者やグループ研究の共同研究者の転居・異動や連絡先の変更、助成金の使途内訳の変更、研究内容・方法の変更、中止等がある場合は、遅滞なく連絡してください。
- ③ 報告書類の提出（研究期間終了年の5月10日締切り）
助成期間終了後、「研究成果報告書」および「会計報告書」等を提出していただきます。
また、会計報告書にもとづき、残金がある場合は返金していただきます。
- ④ 研究成果発表会への出席（研究期間終了年の8月頃）
研究成果発表会に出席していただき、審査委員と出席者に対し、成果発表をお願いします。
(2ヵ年助成対象者は、1年経過時に中間発表をお願いします。)

第15回 児童教育実践についての研究助成に関する日程

応募受付期間	2019年7月1日～10月31日
採否通知	2020年2月下旬
説明会	2020年3月上旬
助成期間	2020年4月1日から1年間または2年間
報告書類提出締切り	研究期間終了年の5月10日
研究成果発表会	研究期間終了年の8月頃 (2ヵ年助成対象者は1年経過時に中間発表)

6. 応募について

① 応募方法

当財団ホームページ (<https://www.hakuhofoundation.or.jp>) の「研究助成マイページ」から、応募してください。

② 応募受付締切日

2019年10月31日(木)

- ※ 応募内容の記述は日本語に限ります。
- ※ ファクスやEメールでの応募受付はいたしません。マイページからの応募ができない場合はお早めにご連絡ください。
- ※ 書類に不備がある場合は選考の対象外となりますのでご注意ください。

7. 個人情報の取り扱いについて

- (1) お預かりしました個人情報は、公益財団法人博報児童教育振興会が厳重に管理し、審査および選考、採否通知の発送および採択された場合の公式発表、当財団のホームページや新聞・雑誌等での活動報告および紹介、当財団の事業および活動の改善を目的としたアンケートの送付、ならびに当財団が主催する今後の事業のご案内やお知らせ、挨拶状および発行物の送付などの目的で使用いたします。なお、お預かりしました個人情報は、法令等により開示を求められた場合を除き、業務委託先以外の第三者に開示または提供することはありません。尚、今回は選外となった場合につきましても、当財団が主催する今後の事業のご案内やお知らせ、挨拶状などを送付させていただく場合がございますのでご了承ください。
- (2) 本件の記録映像、記録写真および成果物は、当財団の活動の範囲内で、当財団のホームページや新聞・雑誌等での活動報告および紹介ならびに事業募集の告知物などに使用される場合があります。研究機関や学校等の組織や個人を特定できる情報（写真や映像等を含む）については、該当する組織や個人に対して掲載内容を連絡のうえ、了承を得た範囲で掲載することとします。
- (3) 個人情報の取扱いに関するお問合わせや、個人情報の照会、訂正もしくは削除のご要望または苦情の申出などにつきましては、下記のお問合せ窓口へご連絡ください。窓口担当者がご本人であることを確認させていただいたうえで、お問合せ等に関する手続きをご案内いたします。

お問合せ窓口：公益財団法人博報児童教育振興会
「児童教育実践についての研究助成」事業担当

※ 当財団の個人情報保護への取り組みについては、以下のウェブサイトをご覧ください
<https://www.hakuhofoundation.or.jp/privacy/>

研究助成金費目一覧

助成期間内に行う研究に直接関係する費用に限ります。使途内容と算出根拠を記入してください。
一律に減額することはありませんので、十分に精査した内容で申請してください。

費 目	内 容 (◎は「申請金額内訳」の「使用目的」欄に記入する内容)
※代表者と今回登録された共同研究者、推薦者への支出は不可。 ◎依頼内容、金額(金券、物品も可)、時間・日数、人数を記入。金額は作業・内容に見合う対価に設定すること(現金、物品いずれも可)。所属機関の規定を参考にしてもよい。	
(1) 人件費・謝金	研究協力者謝金 ・当該研究への協力に対する謝金、交通・宿泊費 (助言・協力、データ入力や調査活動の補助作業等、当該研究に関する作業のみに従事する臨時雇用に限る)
	調査対象者謝金 ・調査対象者(被験者)・機関の協力に対する謝金、交通・宿泊費
※代表者と今回登録された共同研究者のみ支出可能。日当・飲食費は支出不可。マイカー使用時の費用は、領収書がある駐車場代と高速料金のみ支出可能。フィールド調査や海外出張時には傷害保険に加入すること。 ◎目的、行先、期間、回数等を記入	
(2) 旅 費	調査関連旅費 ・国内・海外での調査や打合せのための交通・宿泊費、傷害保険料 (出張単位ごとに行き先と目的を明記すること)
	学会関連旅費 ・国内・海外での学会大会や国際会議参加のための交通・宿泊費、参加費、傷害保険料 (出張単位ごとに学会名・行き先と、当該研究に関連する自身の研究発表のためか、情報収集かを明記すること)
◎品名、個数、金額を記入	
(3) 機 械 費	機器・備品購入費(総額の20%以内) ・PC、PCソフト(ライセンス使用料を含む)、デジタルカメラ、ICレコーダー、ハードディスク、PC付属品等(金額にかかわらず、汎用性のある機器類)
	機器・設備賃借費 ・実践および検査に直接必要な機器・設備等のレンタル使用料(実践授業で使用する多数のタブレットのレンタル、MRI検査室の使用、サーバーのレンタル等)
◎品名、個数、金額を記入	
(4) 消 耗 品 費	実施消耗品費 ・実践授業で直接使用する道具・消耗品 ・知能検査や視聴覚検査等の検査類 ・試作品
	一般消耗品費 ・一般事務用品 ・CD-R、USBメモリ
◎委託内容、研究のどのプロセスで発生するものかを具体的に記入	
(5) 作 業 委 託 費	・アンケート調査、プログラム開発等の一部または全部の委託費用 ・翻訳、編集、校正、印刷・製本等の委託費用
(6) 資 料 費	・図書、文献、CD、DVD、写真等の資料費
(7) その他の諸経費	・会議室と付属備品の使用料、会議時の弁当・お茶代 ・コピー代、発送費、振込手数料、その他上記の項目に該当しない費用

※ 以下の費用は対象外です。

- ・ 研究(代表)者およびグループ研究の共同研究者の労務費(給与や社会保険費等)
- ・ 臨時雇用でない者、あるいは当該研究以外の業務にも従事する者の労務費(給与や社会保険費等)
- ・ 学会等の年会費
- ・ 所属機関から徴収される間接経費、一般管理費
- ・ その他、当財団が対象外と判断したもの

博報財団（正式名称：公益財団法人博報児童教育振興会）は、次代を担う子どもたちの豊かな人間性の育成のために、児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ、「児童教育実践についての研究助成」「国際日本研究フェロシップ」「世界の子ども日本語ネットワーク推進」「博報財団こども研究所」など、「ことば」「文化」の領域を中心に児童教育の支援につながる活動を行っています。2018年度にはこれらに加え、新たに「博報教職育成奨学金」を設立しました。

公益財団法人 博報児童教育振興会

HAKUHO FOUNDATION

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-11-7 ATT 新館 8階

Tel 03(5570)5008 Fax 03(5570)5016

<https://www.hakuhofoundation.or.jp>



公鹿学財外19-第51号

2019年7月1日

大阪大学 学長 殿

公益財団法人 鹿島学術振興財団

理事長 鹿島 昭一



2019年度研究助成事業に関する助成候補者
(人文・社会科学関係) 推薦依頼について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当財団は、別紙「鹿島学術振興財団 2019年度研究助成募集要項」により研究助成の候補者を募集することといたしました。

つきましては、貴学の人文・社会科学の分野で該当する候補者がありましたら、研究助成申請書に所定の書類（推薦書・申請者一覧表）を添えて、下記にご留意の上、ご推薦頂きたくご依頼いたします。

記

1. 推薦について

推薦する研究者（申請者）は、貴学に所属している常勤の研究者とします。

なお、貴学からの推薦件数に制限はありません。

2. 2019年度の助成予定金額

2018年度からの継続申請分を含め、2019年度の採択は総額5,800万円を予定しています。

なお、2018年度の実績は、自然科学、人文・社会科学関係両分野を合わせ、採択件数 45件（新規27件、継続18件）、総額5,580万円でした。

3. 募集要項、申請用紙

当財団ホームページよりダウンロードできます（下記アドレス参照）。紙ベースでの書類をご希望の場合は、事務局へお申し出ください。

4. 締切り年月日

財団への提出期限 2019年10月31日（木）

5. 問合せ先

公益財団法人 鹿島学術振興財団事務局

住 所 〒107-8502 東京都港区赤坂6-5-30

TEL (03) 3584-7418

FAX (03) 5561-2016

当財団ホームページアドレス <http://www.kajima-f.or.jp/>

6. 添付書類

鹿島学術振興財団 2019年度研究助成募集要項、申請書、推薦書

以 上

鹿島学術振興財団 2019 年度 研究助成 募集要項

1. 助成の趣旨

我が国の学術の発展並びに学術の国際交流を図るため、工学を含む自然科学、人文・社会科学、学際融合的な分野・領域等において、国民生活向上への寄与が期待される研究に対して助成を行うものです。

2. 助成対象の研究分野

助成の対象となる主な研究分野は以下の通りです。

- (1) 都市・居住環境の向上
- (2) 国土・資源の有効利用
- (3) 防災・危機管理の推進
- (4) 文化・自然環境の保全

※ (1)～(4)に関連する社会システム等を含む

3. 助成対象研究者

上記2.の対象分野に関する研究を行う、指定する推薦機関に所属する「常勤の研究者」、または常勤の研究者から構成される研究グループとします。

推薦機関は、自然科学の分野は指定する学会、人文・社会科学の分野は指定する大学としています。詳しくは、この募集要項の末尾の推薦依頼先リストにてご確認ください。

ただし、学会・大学等の機関の事業・研究活動として実施されている研究は対象としません。

4. 募集期間

2019年7月1日(月)～10月31日(木)

上記は財団への提出期限ですので、推薦機関への申請期限は、各推薦機関にご確認ください。

なお、2019年度の助成対象となる研究期間は、2020年4月～2021年3月です。

5. 助成金額及び助成期間

(1) 総 額 約 5,800 万円 (予定)

一研究課題への助成金は、継続期間 (2 年目) を含めて合計 300 万円以内とします。

(2) 助成期間は 2 年までとします。

ただし、2 年目の継続助成については財団に直接提出される「中間報告書」により、改めて内容を審査のうえ、採否、助成金を決定します (2 年目の助成継続を希望する場合は、初年度申請時にその希望の有無を明示して下さい)。

6. 助成金の使途

(1) 助成金には、研究に必要な設備備品費、消耗品費、謝金、旅費、印刷製本費等を含めることができます。ただし、設備備品費は原則として助成金額の 30% を超えないものとするとともに、当該研究の実施に直接必要なものに限ります。

(2) 助成決定後、助成金の使途を変更 (年度助成金額の 30% を超えるような場合) する必要がある場合は、必ず事前に事務局までご連絡ください。事前の連絡がなく変更した場合は、助成の取り消し、あるいは助成金の返還 (全額または一部) を求める場合があります。

(3) 当財団は、助成金の一部を所属機関への間接経費とすることについては、これを想定しておりません。

7. 申請手続

(1) 申請者は、必ずこの募集要項の末尾に記載する推薦機関を経て申請書を提出してください。推薦者は、自然科学の分野は指定する推薦機関の学会代表者、人文社会科学の分野は指定する大学の学長または直属の所属機関長 (学部長、大学院研究科長、研究所長等) です。申請者が、申請書を直接当財団に送付することはできません。

(2) 各推薦機関は、推薦書に必要事項を記入の上、申請書とともに当

財団宛に提出をお願いします。推薦機関は、複数の申請を推薦することができます。

(3) 募集要項、申請用紙（含 推薦書用紙）は当財団ホームページよりダウンロードできます。

（当財団ホームページアドレス <http://www.kajima-f.or.jp/>）

(4) 申請書は片面印刷で作成してください。

8. 選考方法

選考は当財団の選考委員会において行い、理事会で決定いたします。なお、選考に際して面接の上、ご説明を頂くこともあります。

9. 選考結果の通知

2020年3月下旬に文書により通知します。

なお、採択者の決定金額は申請額を下回る場合があります。

10. 研究実施報告の提出

(1) 助成研究者は、各年度の助成期間終了後、研究の成果・結果及び会計について当財団に報告していただきます（別に定める様式による）。

(2) 助成研究による研究成果の発表は自由です。ただし、論文には当財団からの助成であることを記述してください。なお、当財団の「研究発表会」において発表をお願いすることがあります。

11. その他

- ・当財団の「研究者交流援助・派遣」との同時申請はできません。
- ・採択した研究課題、研究者名については、当財団のホームページに公表いたします。なお、申請者の個人情報、本人への連絡、選考手続等の目的以外には使用しません。
- ・採択後、助成の条件に違反する事項が明らかになった場合は、遡って採択の取消し、助成金の返還（全額または一部）を求めることがあります。

2019 年度推薦依頼先

学 会（自然科学関係）

空 気 調 和 ・ 衛 生 工 学 会
計 測 自 動 制 御 学 会
電 気 学 会
地 盤 工 学 会
土 木 学 会
日本オペレーションズ・リサーチ学会
日 本 音 響 学 会
日 本 海 洋 学 会
日 本 化 学 会
日 本 火 災 学 会
日 本 機 械 学 会
日 本 建 築 学 会
日 本 生 態 学 会
日 本 都 市 計 画 学 会
農 業 農 村 工 学 会

2019年度推薦依頼先

大 学 (人文・社会科学関係)

北 海 道 大 学	学 長
東 北 大 学	学 長
筑 波 大 学	学 長
東 京 大 学	総 長
東 京 藝 術 大 学	学 長
一 橋 大 学	学 長
名 古 屋 大 学	学 長
京 都 大 学	学 長
大 阪 大 学	学 長
神 戸 大 学	学 長
九 州 大 学	学 長
政 策 研 究 大 学 院 大 学	学 長
学 習 院 大 学	学 長
慶 應 義 塾 大 学	塾 長
上 智 大 学	学 長
早 稲 田 大 学	総 長

鹿島学術振興財団 2019年度 研究助成申請書

2019年 月 日

公益財団法人 鹿島学術振興財団
理事長 鹿島昭一 殿

代 表 者 (申請者)			印	写 真
所属機関・職名 (学部・学科まで記入)				
申請者(ローマ字)				
所属機関・職名(英語)				
最終学歴・学位		現在の専門		
生 年 月 日				
所属機関 所在地	(〒 -)	電話		
	E-mail			
自 宅 住 所	(〒 -)	電話		
	E-mail			

下記のとおり貴財団の助成を申請いたします。

記

1. 研究課題

研究課題名 (内容を具体的に示す課題名を記載)
英語

注：本研究助成申請は、2019年度中に選考、決定を行うが、2020年4月から2021年3月までの期間に行われる研究を対象とする。

申請者は常勤研究者に限るものとし、大学院学生等は対象とはならない。

2. 研究形態

研究の形態 (該当するものを○印でかこむ)	個人研究	共同研究 (名)	国際共同研究 (名)
		※ ()内は申請者を除いた人数	

注①：共同研究者数を () 内に記載のこと。 注②：外国で開催されるシンポジウム等に出席するための外国旅費を得ることを主な目的とするものは、この研究助成の対象外とする。

3. 研究期間

全研究期間 (他財源による研究期間を含む)	年 月 ~ 年 月 年間
--------------------------	--------------

4. 申請金額 ※ 万円単位で申請してください。 (単位：円)

2019年度 助成申請金額					0	0	0	0
---------------	--	--	--	--	---	---	---	---

5. 当財団年度別助成希望額 (単位：円)

2019年度 (上記4の金額をお書き下さい)					0	0	0	0
助成継続希望の有無 (○印) 有 無					0	0	0	0
※助成継続を希望する場合は 2020年度の希望額をお書き下さい。								
合 計					0	0	0	0

注：助成は2年以内とする。2年目は中間報告書の提出によりあらためて内容を審査し、採否・金額を決定する。

6. 本研究に要する総経費 (単位：円)

本研究全体に要する 全研究費の財源区分	期 間	金 額							
	年 月 ~ 年 月								
	年 月 ~ 年 月								
	年 月 ~ 年 月								
	年 月 ~ 年 月								
	年 月 ~ 年 月								
	年 月 ~ 年 月								
	年 月 ~ 年 月								
	年 月 ~ 年 月								
	年 月 ~ 年 月								
計									

注：当財団及びその他の財源（例・大学校費、科研費、他財団助成金等）について今後必要とする財源を全て記載のこと。

(助成期間が終了したものについては記載の必要なし)

7. 当財団以外の機関の助成（6に記載の他財源は全て記入のこと）

7-1 代表者又は共同研究者が本研究に関連して他の機関に助成を申請した場合（予定を含む）は、その旨を記載してください。

（他の機関に助成を申請し、すでに助成が決定している場合は7-2に記載すること。）

申請先の 機関名	研究費等の名称	代表者氏名	研究課題	申請金額 (万円)	助成期間 年月～年月

7-2 代表者又は共同研究者が本研究に関連して他の機関から既に助成を受けている場合は、その旨を記載してください（助成期間が既に終了しているものは記載の必要なし）。

機関名	研究費等の名称	代表者氏名	研究課題	助成金額 (万円)	助成期間 年月～年月

代表者以外の連絡責任者（共同研究者等）

（ふりがな）
氏名

連絡先（〒 - ）

電話
内線

E-mail

本機関所属の上記代表者が貴財団の助成を申し込むことを承諾いたします。

機関名

機関長職名・氏名（職印）

職印

機関所在地（〒 - ）

2019年 月 日

注：1. 機関長は、大学の場合は学長、または直属の所属機関長（学部長、大学院研究科長、研究所長等）とし、その他の研究所等の場合は所長等とすること。

2. 申請書を推薦機関に提出する前に、必ず所属機関長の承諾を得ること。

8. 研究計画の要約 (1)「問題の所在」、(2)「内容」、(3)「方法」、(4)「期待される成果」を1ページ以内に要約。
なお、「内容」には、独創的・先駆的研究か、新しいアプローチで行う研究か、応用研究か、等についても触れること。

(文字は明朝体 10.5 ポイントを使用してください)

9. 研究の目的（その意義・価値・構想理由等）

10. 研究の実施状況（これまでの経過・進捗度）

11. 研究スケジュール（項目別）

12. 2019 年度分申請助成金の使途内訳（使途別に具体的に記入）

(単位：円)

使途区分（内訳） ※記入時、記入例は消去して可	数量 (単位)	単 価	所要額
設備備品費（品名）			
小 計			
消耗品費（品名）			
小 計			
旅費（事項）例)〇〇に関する現地調査（行先△△）			
小 計			
謝金（事項）例)調査補助 ○人×○日			
小 計			
印刷製本費（事項）			
小 計			
その他（事項）			
小 計			
合 計（助成申請金額）			

注：① 設備備品費の額は、申請助成金額の30%を超えないものとする。

② 上記の使途区分(内訳)は必要に応じて追加できる。

13. 本研究の代表者及び共同研究者リスト

研究者	(ふりがな) 氏名	最終学校・専攻	年齢	所属機関・現職・学位 (学部・学科まで記入)
代表者				
共同研究者				

鹿島学術振興財団 2019 年度研究助成 候補者推薦書

2019 年 月 日

公益財団法人 鹿島学術振興財団
理事長 鹿島 昭一 殿

研究代表者

氏 名

所属機関・職名

研究課題

上記研究者を候補者として推薦いたします。

組織（機関）名

職名（機関長）・氏名

組織（機関）所在地（〒 - ）

職 印

電話

注：推薦者は自然科学の分野では、指定した学会の代表者、人文・社会科学の分野では、指定した大学の学長、または直属の所属機関長(学部長、大学院研究科長、研究所長等)とする。

公鹿学財外19-第51号

2019年7月1日

大阪大学 学長 殿

公益財団法人 鹿島学術振興財団

理事長 鹿島 昭一



2019年度研究者交流援助事業に関する助成候補者
(人文・社会科学関係) 推薦依頼について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当財団は、別紙「鹿島学術振興財団 2019年度研究者海外派遣援助募集要項」、「鹿島学術振興財団 2019年度外国人研究者招へい・受入れ援助募集要項」により、研究者の派遣並びに招へい・受入れ援助の候補者を募集することといたしました。

つきましては、貴学の人文・社会科学の分野で該当する候補者がありましたら、申請書（派遣研究者派遣援助申請書「様式1」、外国人研究者招へい援助申請書「様式2」、外国人研究者受入れ援助申請書「様式3」）に所定の書類（推薦書・申請者一覧表）を添えて、下記にご留意の上、ご推薦頂きたくご依頼いたします。

記

1. 推薦について

推薦する研究者（申請者）は、貴学に所属している常勤の研究者とします。また、招へい・受入れの外国人研究者は、貴学において招へい・受入れする研究者としています。なお、貴学からの推薦件数に制限はありません。

2. 2019年度の援助予定金額

自然科学、人文・社会科学関係両分野を合わせて、派遣、招へい・受入れについて総額1,700万円を予定しています。

なお、2018年度の実績は、自然科学、人文・社会科学関係両分野を合わせ、採択件数は短期派遣2件、長期派遣4件、長期受入れ1件、総額1,686万円でした。

3. 募集要項、申請用紙

当財団ホームページよりダウンロードできます（下記アドレス参照）。紙ベースでの書類をご希望の場合は、事務局へお申し出ください。

4. 締切り年月日

財団への提出期限 2019年10月31日（木）

5. 問合せ先

公益財団法人 鹿島学術振興財団事務局

住 所 〒107-8502 東京都港区赤坂6-5-30

TEL (03) 3584-7418

FAX (03) 5561-2016

当財団ホームページアドレス <http://www.kajima-f.or.jp/>

6. 添付書類

(1) 鹿島学術振興財団 2019年度研究者海外派遣援助募集要項、申請書、推薦書

(2) 鹿島学術振興財団 2019年度外国人研究者招へい・受入れ援助募集要項、申請書、推薦書

以 上

鹿島学術振興財団 2019 年度 研究者海外派遣援助 募集要項

1. 趣 旨

我が国の学術の発展並びに学術の国際交流を図るため、工学を含む自然科学、人文・社会科学、学際融合的な分野・領域等において、国民生活の向上に寄与する研究を行う研究者の海外派遣を援助するものです。

2. 援助対象の研究分野

派遣研究者の外国における研究活動（研究、講義、視察等）の対象となる主な研究分野等は以下の通りです。

- (1) 都市・居住環境の向上
- (2) 国土・資源の有効利用
- (3) 防災・危機管理の推進
- (4) 文化・自然環境の保全

※ (1)～(4)に関連する社会システム等を含む

3. 短期派遣

- (1) 外国研究者との討論、あるいは外国の大学等での特別講義等を行う、我が国の顕著な研究業績を有する上級研究者（教授級）を対象とします。
- (2) 派遣期間は、原則として3ヵ月以内です。渡航費（往復）、渡航先国内旅費及び滞在費約15,000円/日を支給します。
- (3) 国際会議、国際研究集会等に出席のための派遣は、対象としません。

4. 長期派遣

- (1) 外国において単独又は共同の研究を行い、その研究分野の発展に寄与する優れた研究業績を有する、あるいは優れた業績が期待される我が国の中堅研究者（准教授、講師、助教）を対象とします。
- (2) 派遣期間は、原則として1年以内です。渡航費（往復）及び滞在費等約10,000円/日を支給します。

5. 研究者交流援助金額

2018年度の研究者交流の援助費は、研究者海外派遣と外国研究者の招へい・受入れとを合わせて、総額1,700万円を予定しています。

6. 助成対象研究者

- (1) 研究者海外派遣援助の申請者は、指定する大学の研究機関に所属する「常勤の研究者」に限ります。
- (2) 推薦機関は、自然科学、人文・社会科学の両分野ともに、指定する大学としています。具体的な機関名は、この募集要項の末尾の「2019年度推薦依頼先」にてご確認ください。

7. 募集期間

2019年7月1日(月)～10月31日(木)

上記は財団への提出期限ですので、推薦機関への申請期限は、各推薦機関にご確認ください。

なお、2019年度の研究者海外派遣援助は、2020年4月以降（渡航は2020年度内）に行われるものを対象とします。

8. 申請手続

- (1) 申請者は、必ず指定する推薦機関を経て申請書を提出してください。推薦者は指定する推薦機関（大学）の学長または直属の所属機関長（学部長、大学院研究科長、研究所長等）です。申請者が、申請書を直接当財団に送付することはできません。
- (2) 各推薦機関は、推薦書に必要事項を記入の上、申請書とともに当財団宛に提出をお願いします。推薦機関は、複数の申請を推薦することができます。
- (3) 募集要項、申請用紙（含 推薦書用紙）は当財団ホームページよりダウンロードできます。
（当財団ホームページアドレス <http://www.kajima-f.or.jp/>）
- (4) 申請書は片面印刷で作成してください。

9. 選考方法

選考は当財団の選考委員会において行い、理事会で決定いたします。

10. 選考結果の通知

2020年3月下旬に文書により通知する予定です。

なお、採択者の決定金額は申請額を下回る場合があります。

11. 報告の義務

派遣研究者は帰国後、研究活動の経過、成果及び会計について当財団に報告してください（別に定める様式による。）。

なお、研究活動の成果について、当財団の「研究発表会」において発表をお願いすることがあります。

12. その他

- ・「研究者海外派遣援助」は、原則として当財団以外からの助成との併用はできません。また、当財団の「研究助成」との同時申請はできません。
- ・申請後、やむを得ない事情により申請を取りやめる場合は、選考結果の通知の有無にかかわらず、すみやかに当財団へご連絡下さい。
- ・申請後、当財団以外からの助成が決定した場合は「申請の取下げ」をお願いする場合がありますので、助成決定が判明し次第、すみやかに当財団にご連絡下さい。採択決定後に判明した場合は「採択の取消し」となる場合があります。
- ・採択された派遣研究者については、当財団ホームページに公表します。なお、申請者の個人情報、本人への連絡、選考手続等の目的以外には使用しません。
- ・派遣研究者は派遣期間の終了後、派遣期間が確認できる書類（①申請時の所属機関長からの証明文書 または ②パスポートの「出入国記録」欄のコピー等）を当財団宛に提出して下さい。

2019年度推薦依頼先

自然科学関係

北海道	大学	学	長
東北	大学	学	長
筑波	大学	学	長
東京	大学	総	長
東京	工業	学	長
名古屋	大学	学	長
京都	大学	学	長
大阪	大学	学	長
九州	大学	学	長
慶應	塾	学	長
東京	理	学	長
日本	大学	学	長
早稲	田	学	総

2019年度推薦依頼先

人文・社会科学関係

北海道大学	学長
東北大学	学長
筑波大学	学長
東京大学	総長
東京藝術大学	学長
一橋大学	学長
名古屋大学	学長
京都大学	学長
大阪大学	学長
神戸大学	学長
九州大学	学長
政策研究大学院大学	学長
学習院大学	学長
慶應義塾大学	塾長
上智大学	学長
早稲田大学	総長

鹿島学術振興財団 2019 年度 研究者海外派遣援助申請書
(短期及び長期用)

2019 年 月 日

公益財団法人 鹿島学術振興財団
理事長 鹿島昭一 殿

写 真

申請者氏名 _____ ㊟

所属機関・職名 _____ (電話 _____)
(学部・学科まで記入) _____ 内線 _____

E-mail _____

氏名(ローマ字) _____

所属機関・職名(英語) _____

所属機関所在地 _____
(〒 -)

自宅住所 _____
(〒 -) (電話 _____)

貴財団の 短 長期研究者海外派遣援助を下記のとおり申請します。

1. 研究課題名

(英 語)

2. 派遣を希望する期間 (出国日から帰国日までを西暦で記入のこと)

年 月 日 から 年 月 日 まで 日間

3. 相手側の受入れ研究機関及び研究者 (短期の場合は訪問先の研究機関及び研究者を記載すること)

研究機関名及び国名 :

研究者職・氏名 :

注 : この派遣は 2020 年 4 月以降 (渡航は 2020 年度内) に行われるものを対象とする。

当財団の他のプログラム (研究助成) との同時申請はできない。

4. 相手国における研究の必要性（短期派遣者は、その活動の必要性）

5. 相手国における研究計画（具体的に記入すること。なお短期派遣者は、講演、視察、調査等の日程の概略を記入すること。）

承 諾 書

上記申請者が2019年度派遣研究者に採用された場合、その派遣を承諾します。

2019年 月 日

所属機関長職名・氏名（職印）

職 印

注 機関長は、指定した大学の学長、または直属の所属機関長(学部長、大学院研究科長、研究所長等)とすること。

鹿島学術振興財団 2019 年度 研究者海外派遣援助申請者調書

記入日： 2019 年 月 日

氏 名					性別	男 女
	(ローマ字)					
生年月日	年	月	日	満 歳	本 籍	都 道 府 県
最 終 学 校		学 位	種 類	取得大学	取得年月日	
現在の専攻						
主な職歴						
過去の渡航歴（在外研究、外国留学、国際会議出席等について訪問先、目的、期間等を記入すること。）						

研究業績 ・最近発表された主な著書、論文及びその発表誌（発表年月、巻、号、頁数を記入すること。）
 ・受賞歴があれば記入すること。

所要経費 ※ 万円単位で申請してください。

短期	長期
渡航費（往復） _____ 滞在日数 _____	渡航費（往復） _____ 滞在日数 _____
滞在費 15,000 円 × _____（日） = _____	滞在費 10,000 円 × _____（日） = _____
渡航先国内旅費概算 _____	渡航先国内旅費概算 _____
合計 _____	合計 _____

語学能力（記載は優、良、可、不可で自己評価して記入すること）

	読解力	作文力	会話力
英 語	_____	_____	_____
フランス語	_____	_____	_____
ドイツ語	_____	_____	_____
ロシア語	_____	_____	_____
語	_____	_____	_____

鹿島学術振興財団

2019年度 外国人研究者招へい・受入れ援助 募集要項

1. 趣 旨

我が国の学術の発展並びに学術の国際交流を図るため、工学を含む自然科学、人文・社会科学、学際融合的な分野・領域等において、国民生活向上に寄与する研究を行う外国人研究者の招へい・受入れを援助するものです。

2. 援助対象の研究分野

招へい・受入れ援助を受ける外国人研究者の研究活動（研究、講義、討論、視察等）の対象となる主な研究分野等は以下の通りです。

- (1) 都市・居住環境の向上
- (2) 国土・資源の有効利用
- (3) 防災・危機管理の推進
- (4) 文化・自然環境の保全

※ (1)～(4)に関連する社会システム等を含む

3. 短期招へい

- (1) 我が国の研究者との討論、あるいは大学等での特別講義等を行おうとする、顕著な研究業績を有する外国の上級研究者（教授級）を対象とします。
- (2) 招へい期間は、原則として3ヵ月以内です。
渡航費（往復）、国内旅費及び滞在費約17,000円/日を支給します。
- (3) 国際会議、国際研究集会等に出席のための招へいは、対象としません。

4. 長期受入れ

- (1) 我が国において単独又は共同研究を行い、その研究分野の発展に寄与する有能な外国の中堅研究者（准教授級）及び若手研究者（助教、大学院学生）を対象とします。

(2) 受入れ期間は、原則として1年以内とし、以下の渡航費、滞在費を支給します。

- ・中堅研究者 渡航費（往復）及び滞在費約 10,000 円/日
- ・若手研究者 渡航費（往復）及び滞在費約 190,000 円/月

但し、既に我が国に滞在中の研究者には、渡航費は支給しません。

5. 研究者交流援助金額

2018年度の研究者交流の援助費は、研究者海外派遣と外国研究者の招へい・受入れとを合わせて、総額 1,700 万円を予定しています。

6. 助成対象研究者

- (1) 外国人研究者の招へい・受入れ援助の申請者は、指定する大学に所属する「常勤の研究者」に限ります。
- (2) 推薦機関は、自然科学、人文・社会科学の両分野ともに、指定する大学としています。具体的な機関名は、この募集要項の末尾の「2019年度推薦依頼先」にてご確認ください。

7. 募集期間

2019年7月1日(月)～10月31日(木)

上記は財団への提出期限ですので、推薦機関への申請期限は、各推薦機関にご確認ください。

なお、2019年度の招へい・受入れの援助は、2020年4月以降（来日は2020年度内）に行われるものを対象とします。

8. 申請手続

- (1) 申請者は、必ず指定する推薦機関を経て申請書を提出してください。推薦者は指定する推薦機関（大学）の学長または直属の所属機関長（学部長、大学院研究科長、研究所長等）です。申請者が、申請書を直接当財団に送付することはできません。
- (2) 各推薦機関は、推薦書に必要事項を記入の上、申請書とともに当

財団宛に提出をお願いします。推薦機関は、複数の申請を推薦することができます。

- (3) 募集要項、申請用紙（含 推薦書用紙）は当財団ホームページよりダウンロードできます。

（当財団ホームページアドレス <http://www.kajima-f.or.jp/>）

- (4) 申請書は片面印刷で作成してください。

9. 選考方法

選考は当財団の選考委員会において行い、理事会で決定いたします。

10. 選考結果の通知

2020年3月下旬に文書により通知する予定です。

なお、採択者の決定金額は申請額を下回る場合があります。

11. 報告の義務

申請者は招へい・受入れ期間の終了後、研究活動の経過、成果及び会計について当財団に報告してください（別に定める様式による。）。

なお、研究活動の成果について、当財団の「研究発表会」において発表をお願いすることがあります。

12. その他

- ・「外国人研究者招へい・受入れ援助」は、原則として当財団以外からの助成との併用はできません。また、当財団の研究助成事業との同時申請はできません
- ・申請後、やむを得ない事情により申請を取りやめる場合は、選考結果の通知の有無にかかわらず、すみやかに当財団へご連絡下さい。
- ・申請後、当財団以外からの助成が決定した場合は「申請の取下げ」をお願いする場合がありますので、助成決定が判明し次第、すみやかに当財団にご連絡下さい。採択決定後に判明した場合は「採択の取消し」となる場合があります。
- ・採択された招へい・受入れについては、当財団ホームページに公表

します。なお、申請者の個人情報は、本人への連絡、選考手続等の目的以外には使用しません。

2019年度推薦依頼先

自然科学関係

北	海	道	大	学	学	長	
東	北	大	学		学	長	
筑	波	大	学		学	長	
東	京	大	学		総	長	
東	京	工	業	大	学	学	長
名	古	屋	大	学	学	長	
京	都	大	学		学	長	
大	阪	大	学		学	長	
九	州	大	学		学	長	
慶	應	義	塾	大	学	塾	長
東	京	理	科	大	学	学	長
日	本	大	学		学	長	
早	稲	田	大	学	総	長	

2019年度推薦依頼先

人文・社会科学関係

北 海 道 大 学	学 長
東 北 大 学	学 長
筑 波 大 学	学 長
東 京 大 学	総 長
東 京 藝 術 大 学	学 長
一 橋 大 学	学 長
名 古 屋 大 学	学 長
京 都 大 学	学 長
大 阪 大 学	学 長
神 戸 大 学	学 長
九 州 大 学	学 長
政 策 研 究 大 学 院 大 学	学 長
学 習 院 大 学	学 長
慶 應 義 塾 大 学	塾 長
上 智 大 学	学 長
早 稲 田 大 学	総 長

鹿島学術振興財団 2019 年度 外国人研究者招へい援助申請書
(短期用)

2019 年 月 日

公益財団法人 鹿島学術振興財団
理事長 鹿島昭一 殿

申請者氏名
(ローマ字)

印

写真

所属機関・職名
(学部・学科まで記入)

所属機関所在地

(〒 -) (電話)
(E-mail)

自宅住所

(〒 -) (電話)
(E-mail)

貴財団の外国人研究者招へい援助を下記のとおり申請します。

記

1. 外国人研究者氏名・所属機関・職名

2. 研究課題名
(英語)

3. 申請者が行っている研究との関係等

注：この招へいは 2020 年 4 月以降（招へいは 2020 年度内）に行われるものを対象とする。
申請者は、外国人招へい研究者の滞在中の責任者となる上級研究者（教授等）とする。

4. 外国人招へい研究者の招へいを希望する理由
5. 外国人招へい研究者に期待する役割（講義研究指導、研究協力等なるべく具体的に）
6. 研究を主として行う研究機関（名称、所在地）
7. 外国人招へい研究者の来日中の行動日程、訪問先等の概要
8. 外国人研究者の招へいを希望する時期 年 月 日 から 年 月 日 まで 日間
9. 外国人招へい研究者のための宿泊、生活上の便宜供与及び滞在中の事故等についての担当処理 機関又は責任者
<p>承 諾 書</p> <p>上記の者が鹿島学術振興財団 2019 年度外国人招へい研究者に採用された場合、 当機関に受け入れることを承諾します。</p> <p>2019 年 月 日</p> <p>所属機関長職名・氏名（職印）</p>

職 印

注 機関長は、指定した大学の学長、または直属の所属機関長(学部長、大学院研究科長、研究所長等)とすること。

**鹿島学術振興財団 2019年度 外国人研究者招へい援助候補者調査
(短期用)**

記入日：2019年 月 日

氏名				性別	男女	写 真
生年月日		国籍				
現住所						
現職 (栄誉的地位を含む)						
最終学歴				学位	取得年	
現在の専攻		受賞				
連絡先						
主な職歴						
我が国の研究者で特に密接な関係のある者の職・氏名とその関係						
来日に関する予備交渉の有無とその経過						

研究業績（代表的な著書、論文及びその発表誌、発表年月等を記入すること。10編以内。）

渡航費滞在費等の必要額 ※ 万円単位で申請してください。

渡航費（往復） _____

滞在費 17,000 円/日 × ^{予定日数} _____ (日) = _____

国内旅費（予定） _____

合 計 _____

同伴者の有無（該当する方にチェックすること。同伴する場合は同伴者の氏名、続柄を明記すること。）

有 1. _____ 2. _____ 3. _____

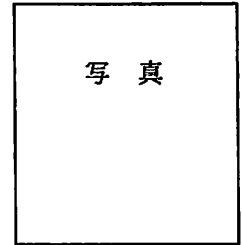
無

その他参考となる事項（過去の来日歴の有無、使用言語等）

鹿島学術振興財団 2019 年度 外国人研究者受入れ援助申請書
(長 期 用)

2019 年 月 日

公益財団法人 鹿島学術振興財団
理事長 鹿島 昭一 殿



申請者氏名 (ローマ字) _____ (印)

所属機関・職名 (学部・学科まで記入) _____

所属機関所在地 _____
(〒 -) (電話)
(E-mail)

自宅住所 _____
(〒 -) (電話)
(E-mail)

貴財団の外国人研究者受入れ援助を下記のとおり申請します。

記

外国人研究者 氏 名		性 別	男 女
生 年 月 日		国 籍	
現 住 所			
現在の所属機関・職名 (大学・研究所・その他)		学 位	
現在従事している研究の 指導者の所属機関(学部・学 科まで記入)・職・氏名			
専 攻	研究課題		
研究計画			
滞在費支給希望期間 年 月 日 から 年 月 日 まで 日間			
外国人受入れ研究者のための宿泊、生活上の便宜供与及び滞在中の事故等についての担当処理機関又は責任者			

注：この受入れは 2020 年 4 月以降（受入れは 2020 年度内）に行われるものを対象とする。
申請者は、外国人招へい研究者の滞在中の責任者となる上級研究者（教授等）とする。

外国人研究者の受入れを希望する理由

外国人受入れ研究者と申請者との研究上の関係

所要経費 ※ 万円単位で申請してください。

中堅研究者

渡航費（往復） _____
 予定日数
滞在費 10,000 円× _____（日） = _____
合 計 _____

若手研究者

渡航費（往復） _____
 予定月数
滞在費 190,000 円/月× _____（月） = _____
合 計 _____

承 諾 書

上記の者が鹿島学術振興財団 2018 年度外国人受入れ研究者に採用された場合、当機関に受け入れることを承諾します。

2019 年 月 日

所属機関長職名・氏名（職印）

職 印

注 機関長は、指定した大学の学長、または直属の所属機関長(学部長、大学院研究科長、研究所長等)とすること。

The Kajima Foundation

2019 Application Form for Long Term Invitation of Foreign Researcher

1. Full Name (Capitalize Family Name)

2. Sex

3. Date and Place of Birth

4. Age

5. Nationality

Height _____ cm

6. Current Employment and Position

7. Postal Address to be used by The Foundation

Tel : _____

Fax : _____

E-Mail : _____

8. Permanent Address

Tel : _____

Fax : _____

E-Mail : _____

9. Dependents

Spouse : _____ ; Others _____

10. Emergency Contact Person

Full Name _____ Relationship _____

Postal Address _____

Tel or

E-Mail: _____

Photo

5.0×4.0(cm)

Please write your name on
the reverse side of photo

11. Education

Institution	Location	Degree/Certificate	Date	Field
_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____

12. Previous Employment

Employer	Location	From-To	Position	Type of work
_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____	_____

13. Subject of Research [Title]

14. Outline of Research

15. Major Publications

Title	Publisher/Journal	Place & Date
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____
_____	_____	_____

16. Research Plan in Japan

17. Proposed Tenure of Fellowship

From: _____ To: _____

18. Languages (Evaluate by Excellent, Good, Fair and Poor)

	Writing	Reading	Speaking
Japanese	_____	_____	_____
English	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____

19. Previous Stays in Japan (if any)

Period	Place	Purpose	Financed by
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____
_____	_____	_____	_____

20. Have you ever received major academic awards?

If yes, please list them.

21. Are you applying for any other fellowship now?

If yes, please indicate them.

22. Japanese Host Scientist

Full Name : _____

Position or Title : _____

Institution : _____

Address: _____

I certify that the information given in this application is complete and accurate to the best of my knowledge.

Date _____

Signature

* If additional space is needed, please attach a separate sheet.

** Upon filling out this form, please send it to your host scientist in Japan.

鹿島学術振興財団 2019 年度研究者派遣・招へい・受入れ 候補者推薦書

2019 年 月 日

公益財団法人 鹿島学術振興財団
理事長 鹿島 昭一 殿

派遣研究者または招へい、受入れ外国人研究者

氏 名

所属機関・職名

研究課題

申請者氏名・所属機関・職名（招へい・受入れの場合のみ）

上記研究者を 派遣 招へい 受入れ

の候補者として推薦いたします。（いずれかに○印）

機 関 名

職名（機関長）・氏名

職 印

機関 所在地（〒 — ）

電 話

注：推薦者は指定した大学の学長、または直属の所属機関長（学部長、大学院研究科長、研究所長等）とする。

公鹿学財外19-第48号
2019年7月1日

大阪大学 御中

公益財団法人 鹿島学術振興財団
理事長 鹿島 昭一

2020年度国際共同研究援助候補者募集について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当財団に対して格別のご指導・支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、当財団では、別紙「鹿島学術振興財団 2020年度国際共同研究援助募集要項」により国際共同研究援助の候補者を募集することといたしました。

つきましては、貴学の研究者に募集概要をご案内いただきたく、募集要項等をお送りいたしますので、宜しくお取り計らい賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 当援助の概要

当財団の援助対象研究分野における、我が国と海外の大学等研究機関の研究者グループによる共同研究に対して研究費の一部等を援助するものです。

援助金額は原則として1件1,000万円を上限とし、援助期間は最大2年間です。

今回は、2020年度援助（採択予定2件）の募集を行います。

2. 申請対象者

研究者グループ代表者（申請者）は、日本の大学など非営利の研究機関に所属している常勤の研究者とします。

3. 募集期間

2019年7月1日～2019年10月31日（財団必着）

4. 募集要項、申請用紙

当財団ホームページにて閲覧、ダウンロードできます。

5. 問合せ先

公益財団法人 鹿島学術振興財団事務局

住 所 〒107-8502 東京都港区赤坂6-5-30

T E L (03) 3584-7418

F A X (03) 5561-2016

当財団ホームページアドレス <http://www.kajima-f.or.jp/>

6. 添付書類

鹿島学術振興財団 2020年度国際共同研究援助募集要項、申請書

以上

鹿島学術振興財団 2020 年度 国際共同研究援助 募集要項

1. 趣旨

当財団の援助対象研究分野における、独創的、先駆的な国際共同研究を援助することにより、我が国の学術の発展並びに学術の国際交流、国際的に活躍する研究者育成等に寄与することを目的とします。

2. 援助対象研究分野等

工学を含む自然科学、人文・社会科学、学際融合的な分野における下記の研究領域が主な対象となります。

- (1) 都市・居住環境の向上
- (2) 国土・資源の有効利用
- (3) 防災・危機管理の推進
- (4) 文化・自然環境の保全

※ (1)～(4)に関連する社会システム、情報技術等先端技術の活用に関するものを含む

3. 申請資格

- (1) 申請代表者は、日本の大学等の研究機関に所属する常勤の研究者であり、海外の大学等の研究機関の研究者グループと共同で研究を行う研究者グループの代表者とします。
- (2) 応募に際しては、原則として国内の共同研究者グループ間、並びに海外の共同研究者グループとの間で研究計画に関する基本的な合意がなされている必要があります。

4. 募集期間

2019年7月1日～10月31日（財団事務局に必着）

5. 援助金額及び援助期間

- (1) 1件当たり援助金は、継続期間（2年目）を含めて原則1,000万円以内とします。

2020年度募集では、2件の採択を予定しています。

- (2) 援助期間は原則2年までとします。
- (3) 今回募集の援助対象となる研究期間

2020年4月～2021年3月

(4) 2年目の継続援助について

財団に提出される「中間報告書（兼継続援助申請書）」により、改めて内容を審査の上、採否、援助金を決定します。

2年目の継続援助を希望する場合は、初年度申請時に希望の有無を明示してください。

6. 援助金の使途

- (1) 援助金は、原則として日本人研究者グループの研究費用が対象になります。日本人研究者グループの研究に伴う海外共同研究者グループの旅費等については対象とすることができます。
- (2) 援助金には、研究に必要な設備備品費、消耗品費、研究者の旅費、謝金、印刷製本費、運搬費、会議費等を含めることができます。ただし、設備備品費は原則として援助金額の30%を超えないものとするとともに、当該研究の実施に直接必要なものに限ります。
- (3) 援助決定後、援助金の使途を変更（年度援助金額の30%を超えるような場合）する必要がある場合は、必ず事前に事務局までご連絡ください。事前の連絡がなく変更した場合は、援助の取り消し、あるいは援助金の返還（全額または一部）を求める場合があります。
- (4) 当財団は、援助金の一部を所属機関への間接経費とすることについては、これを想定しておりません。

7. 申請手続

- (1) 申請代表者は、申請書類に必要事項を記入後、直属の所属機関長（学部長、研究科長、研究所長等）の承諾印を押印の上、直接、財団事務局にお送りください。
- (2) 申請代表者は、当援助が決定した際の共同研究実施の確認のため、海外の共同研究グループの代表者より研究課題等が記載された署名入りの同意書面（書式は自由、メールにて可）を取得し、申請書類にそのコピーを添付してください。
- (3) 募集要項、申請用紙は当財団ホームページよりダウンロードできます。
- (4) 申請書は片面印刷で作成してください。

8. 選考方法

提出された申請書等に基づき、選考委員会での選考を経て理事会で決定します。なお、選考の過程で面接による審査を行うことがあります。

9. 選考結果の通知

2020年3月下旬に文書により通知します。

なお、採択者の援助決定金額は申請額を下回る場合があります。

10. 研究実施報告等の提出

- (1) 採択された研究代表者は、各年度援助期間終了時に実施報告と会計報告を提出していただきます(別に定める様式による)。
- (2) 財団の所定の実施報告とは別に、継続援助期間を含む援助期間終了後1年以内に、海外の共同研究者グループとの共著論文・出版(英文等)等、研究成果にふさわしい方法により、成果報告の提出をお願いいたします。
- (3) 当援助による研究成果の発表は自由です。ただし、論文等には当財団からの援助であることを記述してください。また、中間報告及び実施報告は、当財団年報に掲載させていただくと共に、当財団の研究発表会等での発表をお願いすることがあります。

11. その他

- (1) 当財団の研究助成または研究者交流援助の受給期間中に、当援助を重複して受給することはできません。
- (2) 採択された研究課題、研究代表者名等については、当財団のホームページ等に公表いたします。
なお、申請者の個人情報、ご本人への必要な連絡、選考手続等の目的以外には使用しません。
- (3) 採択後、援助条件に違反する事項が明らかになった場合は、遡って採択の取り消し、援助金の返還(全額または一部)を求めることがあります。

以上

二〇一九年度第十四回

漢検

漢字文化

論文募集

研究奨励賞

漢字研究、漢字に関わる日本語研究、漢字教育など、広く漢字文化に関わる分野における優れた学術的研究・調査等に対して、その功績をたたえ社会全体に広く公表していく制度です。将来一層発展することが有望視される、若い世代の清新な学究の優れた研究論文を選考し、更なる深化を奨励します。

実施概要は裏面をご覧ください

応募先および
問い合わせ先

〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地

公益財団法人 日本漢字能力検定協会「漢検漢字文化研究奨励賞」係

TEL: ☎0120-509-315 (無料) (月~金 9:00~17:00 祝日・お盆・年末年始を除く)

FAX: 075-532-1110

<http://www.kanken.or.jp/> [漢検奨励賞](#) [検索](#)

※応募に必要な書類のダウンロードおよび実施概要や過去の受賞論文の閲覧は、ホームページにて行えます。

応募締切日

2019年10月31日(木)

(協会必着)

2019年度(第14回)漢検漢字文化研究奨励賞 実施概要

■ 対象

- 漢字研究または広く漢字に関わる日本語研究であること。
- 将来、一層の研究・調査の深化、発展が期待できる若い世代の研究(者)であること。
- 応募者本人が日本語で作成し、48,000字以下の分量であること。但し、図表、注、参考文献、引用文献は字数に含めない。
- 過去3年以内に公表した論文(※)も対象とする。但し、既に他で受賞した論文は対象外とする。
※2016年4月1日以降に提出または刊行したもので、著書の場合は論文が元になっているものを対象とする。

■ 選考委員 (五十音順)

- 阿辻哲次 京都大学名誉教授
(公財)日本漢字能力検定協会漢字文化研究所所長
- 笹原宏之 早稲田大学社会科学総合学術院教授
- 森 博達 京都産業大学名誉教授
- 山本真吾 東京女子大学現代教養学部教授

■ 表彰

- 正賞・・・・・・・・・・表彰状
- 副賞・・・・・・・・・・奨励金
- ①漢検漢字文化研究奨励賞 最優秀賞 100万円
 - ②漢検漢字文化研究奨励賞 優秀賞 50万円
 - ③漢検漢字文化研究奨励賞 佳作 30万円
- *但し、該当なしの場合もある。
副賞は所得税および復興特別所得税の源泉徴収額を差し引いた上で支払う。
- 授賞式 2020年3月下旬(詳細は後日案内)

■ 応募について

- (1) 応募資格・条件
応募締切日時点での満年齢が45歳未満であること。
共同執筆の場合は、応募締切日時点ですべての執筆者の満年齢が45歳未満であること。
共同執筆の場合は、それぞれの執筆分担を論文中に明記すること。
- (2) 応募方法(自由応募)
以下の3点を揃え、応募締切日までに郵便または宅配、もしくはEメールに添付して提出してください。
- ①「応募用紙」(当協会所定のもの)
※共同執筆の場合は、執筆代表者のみ当協会所定のものを提出してください。他の執筆者は、共同執筆者用応募用紙に記入し提出してください。
 - ②「応募論文の概要」(当協会所定のもの)
 - ③「応募論文」
応募論文は次のいずれかの形式でご提出ください。
 1. ワードプロ等で作成し、印刷出力したもの(他誌掲載論文の抜刷やコピーは不可)
 2. ワード・一太郎仕様のデータFDまたはCD-ROM
 3. ワード・一太郎仕様のデータまたはPDF(Eメール添付の場合)
 ※「応募用紙」、「応募論文の概要」は、当協会ホームページ(https://www.kanken.or.jp/project/investigation/incentive_award.html)からダウンロードするか、電話もしくはFAXにてお問い合わせください。
※応募書類一式は返却しませんので、あらかじめコピーをお取りの上、ご提出ください。
※Eメール添付の場合、レイアウトの保持・表示・印刷が可能なファイルフォーマットに変換した上で提出してください。
※応募論文の末尾に、図表、注、参考文献、引用文献を除いた本文の文字数を明記してください。
- (3) 応募締切 2019年10月31日(木)(協会必着)

■ 選考と結果通知

- ◆「漢検漢字文化研究奨励賞」選考委員会による選考を行います。
※結果通知…2019年12月下旬
- ◆受賞論文は当協会刊「漢字文化研究」に掲載するほか、当協会のホームページや機関誌、書籍等、当協会が適当と認めた媒体で発表します。
- ◆選考結果は封書にて連絡いたします(共同執筆の場合は執筆代表者へ送付)。

平成30(2018)年度 受賞者・論文名

賞	受賞者		論文名
優秀賞	宮川 優	上智大学大学院文学研究科 国文学専攻博士後期課程2年	西海道風土記乙類歌謡の文字選択(再考)
佳作	菊地 恵太	東北大学大学院文学研究科 博士後期課程3年 日本学術振興会特別研究員(DC2)	位相論的略字史の読み —仏家と非仏家の対立—
佳作	張 馨方	北海道大学大学院文学研究科 博士課程2年	観智院本「類聚名義抄」における小字字体 注記について

※最優秀賞は該当無し 職位は応募当時のもの

平成29(2017)年度 受賞者・論文名

賞	受賞者		論文名
佳作	根来 麻子	川崎医療福祉大学総合教育センター 専任講師	正倉院文書における「因」字の用法
佳作	堀 理	同志社大学 大学院生	原因理由を表す「によりて」について —漢文撰述の影響をめぐって—

※最優秀賞・優秀賞は該当無し 職位は応募当時のもの

- 受賞論文「漢字文化研究」を希望される方は当協会へお問い合わせください。
- 受賞論文は当協会ホームページでも閲覧することができます。

応募先 および
問い合わせ先

〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地
公益財団法人 日本漢字能力検定協会「漢検漢字文化研究奨励賞」係
TEL: 0120-509-315 (無料) FAX: 075-532-1110
<http://www.kanken.or.jp/>

漢検奨励賞 検索

「漢字検定」「漢検」は登録商標です。

応募締切

2019年10月31日(木)
(協会必着)



第13回 候補論文募集開始

社会倫理研究 奨励賞

「社会倫理研究奨励賞」とは？

南山大学社会倫理研究所(以下、社倫研)が、若手研究者による社会倫理分野における優れた研究に対して授与する賞です。

社倫研は、細分化した学問が対応しきれない錯綜した現代社会の問題に対して、人文社会科学の叡智を結集して総合的かつ包括的に取り組み、「人間の尊厳」を回復する方途を探求する研究所です。その活動の環として、21世紀を生きる若い研究者の意欲的な研究活動を奨励し、現代のニーズに応えることを目指して、この賞を設けました。

社会倫理研究は、いわゆる応用倫理学に限らず、様々な領域の専門研究を通じて、社会で生じる解決困難な倫理的問題に挑戦する学術的探究全般を指します。本賞では、問題系・分野・方法論を制限せず、学術性とアクチュアリテイの両軸で優れた研究すべてが対象となります。

(詳しくは社倫研Webページをご覧ください。)



副賞について

授与される賞と副賞(給付研究奨励金)

- 社会倫理研究奨励賞… 1名(30万円)
- 審査員賞…………… 1名(3万円)

授賞式等

2020年3月17日(火)に授賞式を開催し、受賞者には記念講演を行ってまいります。また、審査結果と記念講演内容は2020年5月発行予定の『時報しゃりんけん』(第13号)に掲載されます。なお、当日の授賞式の様子は写真撮影の上、社倫研Webページ等のインターネット媒体にも公開されますことをあらかじめご了承下さい。

審査について

審査対象となる著作物

2018年12月1日から2019年11月30日までに日本語で公開された論文

審査方法

第13回社会倫理研究奨励賞選定委員会(委員長:沢井実[南山大学教授])の協議によって審査します。

審査結果の公表

受賞者本人へ通知の上、受賞者の氏名および受賞論文名を2020年2月上旬に社倫研Webページにて公表します。

締切

2019年12月1日

必着
(随時受付中)

応募について

応募資格

原則として論文公開時に40歳未満

応募方法

応募用書式ファイル(他薦方式か自薦方式のいずれかを選択)を社倫研Webページからダウンロード・印刷してご記入の上、応募論文を同封して、下記住所までご郵送下さい。

他薦方式:本人以外の人物による推薦文を添付すること

自薦方式:本人による800字以内の要約を添付すること

*他薦・自薦で審査結果が左右されることはありません。

宛先

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

南山大学社会倫理研究所

社会倫理研究奨励賞係

審査の過程で当研究所が得た個人情報、本賞選定の目的以外に使用されることはありません。なお、個人情報取扱の詳細については、「南山大学個人情報保護に関するガイドライン」に準拠します。



南山大学社会倫理研究所

<http://rci.nanzan-u.ac.jp/ISE/> ise-office@ic.nanzan-u.ac.jp

南山大学社会倫理研究所

- TOP
- 研究所紹介
- 研究プロジェクト
- 活動/イベント
- 刊行物
- 社会倫理研究奨励賞

社会倫理研究奨励賞 応募要領

第13回候補論文募集要項

2019年07月19日

社会倫理研究奨励賞

応募要領

歴代受賞論文

Q&A

|| 応募要領 (第13回)



拡大してみる

審査方法	第13回社会倫理研究奨励賞選定委員会（委員長：沢井実 [南山大学教授]）の協議によって審査します。
審査結果の公表	受賞者本人へ通知の上、受賞者の氏名および受賞論文名を2020年2月上旬に社倫研Webページ上で公表します。
授与式等	2020年3月17日に授賞式を開催し、受賞者には記念講演を行ってまいります。また、審査結果と記念講演内容は、2020年5月発行予定の『時報しゃりんけん』（第13号）に掲載されます。なお、当日の授賞式の様子は写真撮影の上、社倫研Webページ等のインターネット媒体にも公開されますことをあらかじめご了承下さい。
授与される賞と副賞（給付研究奨励金）	社会倫理研究奨励賞 1名（30万円） 審査員賞 1名（3万円）
応募資格	原則として論文公開時に40歳未満
審査対象となる著作物	2018年12月1日から2019年11月30日までに日本語で公開された論文
締め切り	2019年12月1日（日）必着 【随時受付中】
応募方法	応募用書式ファイル（他薦方式か自薦方式かのいずれかを選択）を当Webページからダウンロード・印刷してご記入の上、応募論文を同封して、下記住所までご郵送下さい。 ・他薦方式：本人以外の人物による推薦文を添付すること →他薦申込み用紙（WORD版/PDF版） ・自薦方式：本人による800字以内の要約を添付すること →自薦申込み用紙（WORD版/PDF版） *他薦・自薦で審査結果が左右されることはありません。
宛先	〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18 南山大学社会倫理研究所 社会倫理研究奨励賞係

このページのTOPへ戻る▲

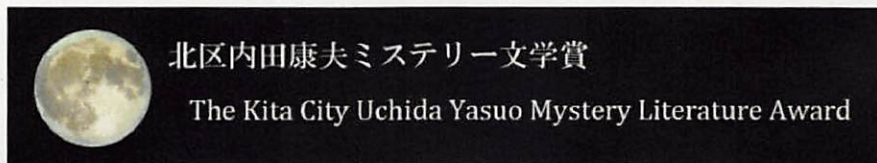


ホーム > 区政情報 > 広報・広聴 > 北区イメージ戦略ビジョン (KISS) > 北区 内田康夫ミステリー文学賞

掲載開始日：2009年7月7日

最終更新日：2019年7月5日

北区内田康夫ミステリー文学賞



新着情報

○2019.4.11

第18回「北区内田康夫ミステリー文学賞」の作品を募集中です。

締め切りは2019年9月30日（月）必着です。

詳しくは「[募集要項](#)」をご覧ください。皆さんの力作をお待ちしております。

○2019年3月28日

第17回「北区内田康夫ミステリー文学賞」の各賞が決定しました。

[「選考経過」](#)でお知らせしています。

内田康夫氏ご逝去のお知らせ

平成8年より北区アンバサダーとして活動された作家の内田康夫氏（83歳）が、3月13日（火曜日）にご逝去されました。

北区内田康夫ミステリー文学賞とは

北区内田康夫ミステリー文学賞は、北区の知名度を高め文化的イメージを強めるため、平成8年より北区アンバサダー（大使）として活動された作家の故内田康夫氏に協力いただき、平成14年4月に創設しました。北区西ヶ原生まれの同氏の作品「浅見光彦シリーズ」には、北区がたびたび登場します。



[募集要項](#)

[授賞式・記念イベント](#)

[選考経過](#)

[過去の受賞作品](#)

[関連情報](#)



[ホーム](#) > [区政情報](#) > [広報・広聴](#) > [北区イメージ戦略ビジョン \(KISS\)](#) > [北区内田康夫ミステリー文学賞](#) > [募集要項](#)

掲載開始日：2015年2月21日

最終更新日：2019年5月27日

募集要項

東京都北区では、作家の内田康夫さんの協力を得て創設した「北区内田康夫ミステリー文学賞」の第18回応募作品を広く募集します。

募集作品

ミステリー作品の短編小説で、日本語で書かれた自作未発表の作品に限ります。
なお、東京都北区の地名・人物・歴史などを入れ込んだ作品を歓迎します。
ただし、このことの有無が選考の基準とはなりません。

応募資格

年齢、性別、職業、国籍は問いません。

応募方法

応募原稿の形式および枚数は以下の2通りのみです。

- (1) ワープロ原稿の場合…必ず32字×40行(A4用紙横置きに縦書きで印字)で、12.5枚以上25枚以内。
- (2) 手書き原稿の場合…必ず400字詰原稿用紙で、40枚以上80枚以内。

表紙には以下1～8を列記してください(表紙の記入例は下記参照)。

1. 作品名 (「」は特に作品名に必要な場合以外は記載しない)
2. 枚数 (ワープロ原稿の場合は印刷枚数)
3. 氏名
4. ペンネーム (氏名と同じ場合は「なし」と明記)
5. 応募時点の年齢
6. 郵便番号・住所
7. 電話番号
8. 職業

を明記してください。

- ・表紙の次に800字程度のあらすじを付し、次いで本編を添えてから右肩を綴じ、郵送してください。
- ・ワープロ原稿、手書き原稿、どちらの場合にも本編にはページ番号を振ってください。

※枚数オーバーなど、応募方法の規定に反することのないようご注意ください。

[表紙記入例 \(PDF: 80KB\)](#)

表紙はこちらの用紙をダウンロードして、そのままご利用いただけます。

応募先

〒114-8508

東京都北区王子本町1-15-22 北区政策経営部広報課内

「北区内田康夫ミステリー文学賞」H係

電話番号 03-3908-1102

応募締切

2019年9月30日（月曜日）必着

選考委員

山前 謙（推理小説研究家）
北区長
北区文化振興財団理事長
ミステリー関連出版社の編集者 ほか

賞

大賞（1編） 賞金 100万円

特別賞（1編～2編） 賞金 各10万円

なお、大賞受賞作品及び特別賞受賞作品は、「Webジェイ・ノベル」（実業之日本社）に掲載します。また、大賞受賞作品及び特別賞受賞作品などを掲載したブックレットを作成し、授賞式・記念イベント来場者や受賞者、出版関係者などに配布予定です。さらに、大賞受賞作品は、舞台化の予定です。

賞の発表

2020年3月予定

その他

大賞受賞作品及び特別賞受賞作品の著作権は東京都北区に帰属します。

- ・応募された原稿は返却しませんので、必要な方はコピーをお取りください。
- ・応募された原稿や選考に関する問い合わせには応じられません。
- ・同人雑誌やホームページなどに既に発表したものは発表済みとみなします。自作未発表でない作品は、入賞後でも入賞を取り消します。
- ・同じ作品による他の文学賞との二重投稿は認められません。
- ・第三者の権利を侵害した応募作品（他の作品を模倣する等）は無効となり、その場合の権利侵害に拘わる問題は、すべて応募者の責任となります。

主催・共催

主催 東京都北区
共催 （公財）北区文化振興財団
協力 （一財）内田康夫財団
協賛 （株）実業之日本社

お問い合わせ

所属課室：政策経営部広報課（イメージ戦略・シティプロモーション担当）
東京都北区王子本町1-15-22 北区役所第一庁舎3階1番
電話番号：03-3908-1102

東京都北区 〒114-8508 東京都北区王子本町1-15-22 電話番号：03-3908-1111

Copyright © Kita City. All Rights Reserved.